

第25号 平成6年11月  
関東氷上郷友会

山  
々  
々  
々



吟彦

おもわず新しい

**NEXT** 

“包装文化を創造するネクスタグループ”

## ネクスタ株式会社

本 社	536	大阪市城東区今福西3-2-24	Tel 06-932-7214
東京支店	111	東京都台東区柳橋1-20-4久月ビル8F	Tel 03-3861-2331
大阪支店	536	大阪市城東区今福西3-2-24	Tel 06-939-1281
名古屋営業所	451	名古屋市西区又穂町3-13	Tel 052-521-8111
九州営業所	811-25	福岡県粕屋郡久山町猪野小柳884-1	Tel 092-976-2211

## ネクスタ ラッピー株式会社

本 社	536	大阪市城東区今福西3-2-24	Tel 06-932-7214
東京工場	121	東京都足立区中央本町5-22-12	Tel 03-3849-6611
千葉工場	270-02	千葉県東葛飾郡関宿町台町2192	Tel 0471-96-1721
名古屋工場	451	名古屋市西区又穂町3-13	Tel 052-521-8111
大阪工場	536	大阪市城東区今福西3-2-24	Tel 06-939-1281
福井工場	919-04	福井県坂井郡春江町江留下相田63-66	Tel 0776-51-5886
福岡工場	811-25	福岡県粕屋郡久山町猪野小柳884-1	Tel 092-976-2211

## ネクスタ パッケージ株式会社

本 社	536	大阪市城東区今福西3-2-24	Tel 06-932-7214
栃木工場	349-13	栃木県下都賀郡藤岡町藤岡4938	Tel 0282-62-3321
兵庫工場	675-11	兵庫県加古郡稲美町蛸草1438-1	Tel 0794-95-0257

山  
々  
々

第25号



山ざる 第25号 目次

表紙……………常岡幹彦画・朝霧の塔（青垣町高源寺）……………平成六年作

口絵写真……………初冬の丹波……………渡邊隆男

子守歌……………青垣町史より……………4

ごあいさつ……………村上末吉……………5

平成五年度「郷友の集い」の会……………6

創立百周年記念大会発起人名簿……………10

発起人賛同者からのお便り……………12

△ふるさと随想▽

懐郷の弁……………久下梅次……………17

幸せ帰郷……………澤田みさを……………20

よみがえった故郷……………小笠勝啓……………21

父と丹波柏原教会……………宮野 近……………24

田 健治郎略伝……………宮野 近……………26

丹寿荘の母を想いて……………青木 修……………27

二十年ぶりの再会……………広内康邦……………29

ふるさと青垣……………飯田光雄……………30

旧友と出会える日……………山岸幸子……………31



△近況・エッセイ▽

- スウェーデン・ガラスの思い出……………生田清弘…………… 33  
柏陵同窓会館建設にご理解を……………植田憲雄…………… 35  
田舎と都会の「山ざる」……………小田晋作…………… 36  
奈良学園都市のこと……………酒井重男…………… 37  
老 い……………下中昭男…………… 38  
“十四の瞳”同窓の旅……………足立正美…………… 40  
やまざる信州に住む……………上村邦子…………… 42  
この頃思うことども……………矢尾鐵太郎…………… 43  
関西国際空港物語……………梶原 清…………… 66

△インフォメーション▽

- 展覧会／同好会／柏陵同窓会／寄付者芳名録／訃報…………… 53  
お便り短信…………… 56  
丹波の動き…………… 61  
関東氷上郷友会々々則／役員氏名…………… 67  
会計報告…………… 69  
協賛広告…………… 70  
会員名簿…………… 卷末



子守歌

—青垣町史より—

- 可愛い子じゃとて 甘ちゃで育て 親の甘ちゃが 毒になる
- この子守りして 賢こう育て 君のお役に 立てましよう
- ねれば極楽 起きれば地獄 ねんねした子は 神のかみ
- 山でこわいは 猿とりいばら 里でこわいは 守りの口
- 守りよ帰れよ きつねがつまむ ここは稲荷さんの元屋敷
- ねんねの坊やが お乳をのんで 大きくなったら 何になる
- 馬子か かごかき 雲すけか 諸国大名のやりもちか
- いいえ 坊やは やりもちに 槍をもたせるお大名
- 下へ下へと勇ましく 行列そろえて 江戸上がり



# ごあいさつ

会長 村上末吉



郷友の皆様にはお元気で活躍のことと拝申し上げます。

不況もこんなに長く、だらだらと続くと、性急な日本人には不向きで、飽きあきというよりも虚脱状態さえ覚える程の深刻さです。

こんなとき、郷里のことを振りかえってみるのもよいことだと思ふのです。最近は関西弁が東京でも日常化してきて、懐かしい田舎弁を聞いても、感動一入ということもないようです。しかし赤く熟した柿が青空に映え、トンビが空に悠々と回っている田園風景が、頭から消えることは無く、古里の土と水と山はちっとも変わらないのであるだろうし、又そうあってほしい思いは皆同じだろうと思います。

高速道が貫通し、道路は舗装されても、雑草たくましく茂り、虫は生き抜いて行くだろうと思ふと、世代が変わり、都

市化の波が押し寄せてきても、郷里の情緒は人の心にしんみりと漂うものだと思っています。

ふるさとをどのように感じているかは、十人十色でしょうが、生まれ育ったふるさととは皆同じだという点で共有している心情まで変更はできないだろうと思つていきます。

さて、来年は関東水上郷友会の創立から丁度一〇〇年目を迎えます。この『山ざる』誌上でお知らせできるのは最後です。一〇〇周年について述べさせて頂きます。

こんな不況のときですので、殊更に盛大にしようとは皆様もお考えではないと思いますが、千歳一遇と申します通り、二度とない年回りですので、永い歴史を振りかえりながら、互いに関東で仕事のできる息災を確かめあい、喜びあえる機会になれば幸いだと思います。

ついでには、平成六年の総会で皆様に一〇〇周年の行事を行うことのご諒解を得てから実行委員会を発足させ、実行委員の皆様のご意向に従って準備をさせて頂くことになりました。実行委員に選ばれた方は、ご多用中恐縮ですが、会員のためご尽力くださいますよう今からお願ひいたします。

また会員の方は、丁度よい機会ですので、一人でも多くの方をご勧誘くださってご参加されるようお願い申し上げます。

最後になりましたが、二度とないこの機会を後進の若い方々によき花道となるよう、申し添えて頂くと幸甚の至りです。

## 平成五年度「郷友の集い」の会

昨秋11月29日、九段会館で

平成五年度「郷友の集い」は、十一月二十日九段会館にて開催され、総会・祝寿会・懇親会が行われた。参加者は総勢六十七名。

総会では、村上会長のあいさつのもと、議事に移り、理事会より提案された「理事一名選任の件」及び「創立百周年記念行事発起人選任の件」が審議され、それぞれつぎのような決議を見た。

### 一、理事一名選任の件

池田忍さんが理事会より推せんされ、満場一致で選任された。池田さんには「山ざる」24号から編集をお願いしている。

### 一、創立百周年記念行事発起人選任の件

選出方法及び氏名については、事務局に一任。平成六年七月ごろまでに事務局で選出した方々へ依頼状を発送し、八月末日には発起人名簿を作成する。これを理事会に諮った上、平成六年度総会での承認を得る。

つぎに坂上理事より平成五年度の会務報告、足立和巳理事より会計報告、藤田、荻野両監事より会計監査報告があった。

会計報告は別記の通りである。台所の事情は相変わらず好転せず。「山ざる」24号からの名刺広告を1/6頁五千元と従来より千円値上げしたが、これとても会計理事の頭痛の種を除くにはほど遠い。会費の拠出と「山ざる」誌広告への協賛に会員諸兄弟の一層のご助力を賜りたい。

### 有田毅さんら九氏に祝寿

祝寿会では左記の方々にお祝の記念品を差しあげ、会長よりお祝いの言葉を添えた。今回祝寿を申しあげた方々は、大正二年のお生まれである。(五十音順)

足立 誠一殿(青垣町) 有田 毅殿(氷上町)  
小野智恵子殿(氷上町) 大野すゞ子殿(山南町)  
久下 梅次殿(氷上町) 谷口 明郎殿(氷上町)  
西垣 秀正殿(山南町) 東田 實殿(山南町)  
若栗すぎ子殿(春日町)



右を代表して有田毅さんからウイットに富んだ謝辞(写真)があり、会場からはなおご健康で長寿を享受されることを祈る暖かい拍手が湧いた。



梶原清さんの乾杯の音頭で始まった懇親会は、いつものがらのなごやかな語らいの輪が広がった。

余興では、西崎祥（出町京子）さん振付の「デカンショ恋唄」が西崎さん自演で披露され、一同感激。おなじみの銀座ザ・トップクラブ・ミュージックサルーンのお嬢さんたちのコーラス（岡田一男さん提供）も、会場の盛り上がり華をそえた。

「お楽しみ抽選会」では、今年も有志の方々の志で、沢山の景品が用意され、それぞれ幸運を手にして、みな満足をみやげに午後四時散会した。

当日の出席者とお楽しみ抽選会景品提供者はつぎの通りである。（敬称略・順不同）

●「集い」出席者

（来賓）

森本 浩三（兵庫県東京事務所）

新家 盛次（県立氷上高等学校々長）

（祝寿）

有田 毅

（会員）

○青垣町（四名）

足立勲平 足立静雄 平元富美子 足立和巳

○市島町（十名）

大槻作治郎 荻野武 荻野一雄 木村つた江 近藤勇  
高見嘉都司 高見秀史 鶴田ゆき子 余田士郎 田中篤郎

○柏原町（十五名）

足立美都子 生田清弘 上村愛子 上山頭 岡田昌子  
志村勝郎 鈴木大助 高田美佐子 谷達雄 常岡幹彦  
出町京子 能勢徹 宮野近 村上善英 久安敏夫

○春日町（八名）

上田脩 木呂子恵美子 熊坂弘子 水船隆昌 村上末吉  
吉住重造 吉見敏子 宮川昌龍

○山南町（十一名）

池田忍 梶原矢寸子 下中昭男 仲一聰 中居篤子  
逸見あや子 久保良雄 広瀬安伸 広瀬庸世 増井攻

大野義昭

○氷上町（十三名）

足立吉雄 安達健一郎 石倉軍二 大地富美子 岸本勲  
岸本とし子 坂上勝朗 新田浩迪 長谷川尚 本城英明  
前田守 前田亘 渡辺隆男

○多可郡（二名）

笹倉郁子 藤田正雄

○多紀郡（一名）

梶原清

●お楽しみ抽選会景品寄贈者

足立 誠一殿	テレホンカード	一〇本
笹倉 強殿	演奏会チケット	五組
堀井 隆川殿	インスタントカメラ	五本
大木 正徳殿	ポケットラジオ	五本
岡田 一男殿	世紀の遺書	五本
池田 忍殿	自分史年表	三本
吉住 重造殿	高級セーター	五本
岡 吉明殿	織田煮	三本
足立かをる殿	スキンケアサポータストッキング	一〇本
足立 勲平殿	カラータオル三点セット	一〇本
木村つた江殿	泉屋クッキー	一〇本
足立 和巳殿	日高昆布	一〇本
常岡 幹彦殿	野沢菜	一五本
高見 秀史殿	モンローワイン	四本
生田 清弘殿	キーホルダー	三本
明 香 園殿	お茶	五十本
兵庫県東京事務所	バスタオル他	四本
村上 末吉殿	オーブントースター	五本
中居 篤子殿	モカロール	七本
渡辺 隆男殿	複製名画	四本
郷 友 会殿	もち吉煎餅	参加者全員

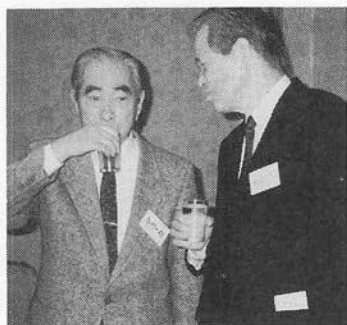
●特別協賛

出町 京子殿	舞踊「デカンショ恋唄」	
岡田 一男殿	ザ・トップクラブ・ミュージックサルーン	

●寄付者芳名録

兵庫県事務所長殿		
若栗すぎ子殿		二〇、〇〇〇円
石倉 軍二殿		二〇、〇〇〇円
柏陵同窓会長	吉見 文憲殿	一四、〇〇〇円
水上高校長	井上 寛之殿	一〇、〇〇〇円
有田 毅殿		一〇、〇〇〇円
大地富美子殿		一〇、〇〇〇円
木呂子恵美子殿		一〇、〇〇〇円
荻野 武殿		九、〇〇〇円
近藤 勇殿		八、〇〇〇円
常岡 昭殿		五、〇〇〇円
祐安 夏恵殿		五、〇〇〇円
足立 敦子殿		五、〇〇〇円
高橋世志子殿		五、〇〇〇円
藤原 和徳殿		五、〇〇〇円
常岡 幹彦殿		五、〇〇〇円
池田 忍殿		三、〇〇〇円
畑 秀夫殿		三、〇〇〇円
千葉 淳子殿		二、〇〇〇円

# 総会スナック



# 来秋の創立百周年記念大会へ

## 発起人賛同者すでに二五一名

来年の秋、関東水上郷友会一〇〇周年大会を盛大に催すべく、理事会で諸計画を立案中ですが、一方、会員有志に大会の発起人に参加を呼びかけております。九月現在、すでに左

記の二五一名が賛同され、さまざまな期待が寄せられておりますので、そのお便りの一部を掲載させていただきます。

一〇〇周年といえは郷友会の大きな節目、この際、発起人が中心となって一人でも多くの会員に参加を呼びかけ、郷友会の歴史に残る画期的な大会に盛りあげたいと思います。

一〇〇周年記念大会にご賛同の方は、ぜひとも事務局までご連絡ください。大会発起人として発表し、記録に残したいと思っております。

### 関東水上郷友会百周年記念大会・発起人名簿（平成六年九月現在）

- |        |         |        |        |        |        |        |         |
|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| ✓安達健一郎 | ✓足立 明子  | ✓足立かをる | ✓足立 和巳 | ✓足立 勲平 | ✓足立 敬子 | ✓足立 謙悟 | ✓足立 静雄  |
| ✓足立 真一 | ✓足立多鶴子  | ✓足立 忠司 | ✓足立 昌彦 | ✓足立 勝  | ✓足立 主男 | ✓足立美都子 | ✓足立 吉雄  |
| ✓青木 修  | ✓秋山 一男  | ✓秋山 康男 | ✓芦田 重秋 | ✓芦田 坦  | ✓芦田 昌保 | ✓葦田 冬子 | ✓天野 清子  |
| ✓綾木 健  | ✓荒木 泰雄  | ✓井上 庸子 | ✓井田 悦子 | ✓井本 馨  | ✓井本 義一 | ✓飯田 光雄 | ✓生田 清弘  |
| ✓池田 忍  | ✓池田弥栄子  | ✓石川美代子 | ✓石田 修三 | ✓磯畑 脩  | ✓稲次 悌子 | ✓稲次 淑子 | ✓上田 脩   |
| ✓上田 雄彦 | ✓上田 譲   | ✓上野 重喜 | ✓上村 愛子 | ✓植木 一夫 | ✓白井小五郎 | ✓打田 宏志 | ✓恵本みよし  |
| ✓榎本 康子 | ✓小笠 勝啓  | ✓小川 晴通 | ✓小田富士夫 | ✓小野智恵子 | ✓木江 範子 | ✓大垣 忠男 | ✓大木 千里  |
| ✓大木 正徳 | ✓大木戸しず子 | ✓大地富美子 | ✓大槻作治郎 | ✓大西 泰子 | ✓大野すゞ子 | ✓大野 義昭 | ✓大野 善三  |
| ✓岡 吉明  | ✓岡林 逸男  | ✓岡山 充  | ✓荻野晴一郎 | ✓荻野 泰次 | ✓荻野 武  | ✓荻野 哲男 | ✓荻野美穂子  |
| ✓可部美智子 | ✓加賀山次郎  | ✓影山 朱實 | ✓片岡クミ子 | ✓神野 妙子 | ✓木下 清史 | ✓木村つた江 | ✓木呂子恵美子 |
| ✓岸田 勇  | ✓岸本 真輔  | ✓北川 義博 | ✓北山 素純 | ✓久下 梅次 | ✓久下 善生 | ✓久保 知義 | ✓久保 春雄  |
| ✓久保 豊  | ✓久保 良雄  | ✓小糸 イキ | ✓小杉 武生 | ✓小谷 崇  | ✓小中 克巳 | ✓小林 和子 | ✓古倉 克實  |

梶原 清	吉竹 正明	山口 敏之	森下千壽子	水谷 正人	前田 和市	細木 敦子	廣瀬すがの	橋爪 忠	新田 浩迪	永井 勇	徳義 通夫	常岡 幹彦	竹中 祥子	高見嘉都司	田中 寛	勢原 正彦	篠原よね子	坂上 勝朗	近藤 勇夫
田 英夫	義積 保	山中 人美	森田 清子	水船 隆昌	増井 攻	細見 次郎	廣瀬 安伸	橋本 真二	野村 醇	永井希代子	徳田直三郎	鶴田ゆき子	谷垣 尚	高見修次郎	田辺 泰久	勢川 武彦	下中 昭男	坂上 豊	近藤 勇
垣見みづゑ	依藤 俊平	山本 清士	森田 宏	宮野 近	松下トシ	細見 利明	婦木 一男	畑 光	野村 節三	永井 均	徳榊 紘逸	出町 京子	谷垣 宏造	高見 孝男	田口 正男	正呂地群治	坂本 重雄	近藤 田治	近藤 田治
石倉厚二	依藤 廣次	山本 紀子	矢尾鉄太郎	村上 末吉	松下 文雄	細見 尚史	藤田 和彦	畑 雅樹	能勢 次郎	西尾 久之	中居 篤子	寺岸喜美子	谷口 捷	高見 秀史	田中 茂雄	須原 逸郎	酒井 明朗	近藤 哲夫	近藤 哲夫
	和久 頼生	山本 裕子	矢本 博一	村上 昇	丸川健三郎	堀井 隆川	藤田 千治	畑中 慶次	能勢 徹	西垣 秀正	中野 周子	田 健十	谷口 浩章	高見 幸男	田中登喜子	菅沼 妙子	笹倉 強	権田 京子	権田 京子
	和田 信雄	茶田 士郎	安田 功	村上 久夫	三浦 和子	本城 英明	藤田 正雄	樋口ふみ子	羽賀 澄代	西田みどり	中村 正之	田 敏夫	檀 和深	竹内 茂子	田中 篤郎	梶田 廣子	沢田みさを	佐藤 菊子	佐藤 菊子
	若森 敏郎	横溝 初子	安原三智子	村上 善英	三髯 洋子	本田 靖彦	船越 祥郎	広内 康邦	葉山たづ子	西畑 健一	中山 昇	十倉 博	千種 倫幸	竹内 光子	田中 昌子	直田 正	志村 勝郎	斎藤美寿子	斎藤 美寿子
	渡辺 隆男	吉住 重造	室井 和代	室井 和代	三宅 良夫	前田 和秀	細川 倫夫	広沢 克江	生原 富子	西安三三夫	仲 一聡	土井 雄三	常岡 昭	竹中紀代子	田中三喜男	鈴木 和栄	清水 展代	斎藤 陽子	斎藤 陽子

2490

上野 重喜氏（横浜市）

平成七年度は郷友会の百周年に当ります由、発起人を承諾させていただき、ただし都心から遠く離れた国立に勤務いたしております関係上、十分お役に立てないのではと危惧致します。さらに他に適当な方があればなお結構かと存じますが末席に加えさせて頂くことに異存はございません。百周年記念大会の御成功を心からお祈り申し上げます。御発展を祈り上げます。

森下千寿子さん（練馬区）

郷友会の運営には、お忙しい中、ひとかたならぬお世話をいただいている感謝でございます。来年は、創立百周年の記念すべき年に当たる由、皆様と御一緒にお祝い出来ますことは、この上ない喜びでございます。微力ですが発起人に名を連ねさせていただきます、親睦の輪が広がりますよう協力させていただきます。

綾木 健氏（練馬区）

此度の関東水郷友会創立百周年記念大会発起人の件、喜んでお引受け致したくご返事申し上げます。素晴らしい大会になります様、微力ではあります、お役に立てればこの上なく幸甚に存じます。

森田 宏氏（多摩市）

事務局のみなさまお変わりございませんか。毎日常大変ご苦労様です。さて、御依頼の百周年記念大会発起人の件ですが、ありがたくお受け致します。発起人に選ばれましたことを誠に光栄と思っております。少しでもお役に立てば幸いです。よろしくお願い申し上げます。みなさまの御健勝をお祈り申し上げます。

余田 士郎氏（三鷹市）

こんな怠け者に、身に余るご依頼を戴き、大変光栄の至りです。先日、役場から参りました地籍簿の閲覧も人任

せにして居る様な訳で、もう大分長いこと田舎に帰っていませんので、お役に立てるかが心配です。幸いなことに暇だけは充分ありますから、私に出来る様な事がありませんれば、ご依頼の件を受けさせて戴きます。会長を初め幹事の皆様方の御苦勞を心より感謝して居ります。

近藤 勇夫氏（新宿区）

私は東京生まれの東京育ちです。丹波の想い出は何もありません。しかし、父林蔵が最後までなつかしがついていた大切なふるさと春日町国領ということでも私も何時までも大切にしたいと思っております。

片岡クミ子さん（板橋区）

思わぬお便りを手にして少々迷っている私ではございますが、伝統あるこの会に私のような者が選ばれましたことを光栄に思い一人でも多くの方にお出逢いする機会を楽しみに、何かのお

## 発起人賛同者からのお便り

役に立てればと存じておりますのでよろしくお願い申します。

久下 梅次氏（相模原市）

今回、関東水上郷友会創立百周年記念大会の発起人になるよう連絡を受け、老齢（八十歳）のため却って皆様のお足跡となるのを案じ、辞退するのが本意乍ら、みな様の熱意に応え末席に名を列ねることを承諾いたします。

小笠 勝啓氏（横浜市）

郷友会の皆様には日頃大変敬意をいただき感謝しておりますのに総会にも殆ど出席せず申し訳なさで一杯です。今回百周年記念大会の発起人の一人としてご指名いただいたのは日頃の怠慢の罰と考え、お役に立たないのは承知で人数の足りない場合はお受けいたしません。

生田 清弘氏（世田谷区）

百周年という大きな節目の記念すべ

き大会を是非成功させ、郷友一同心に残る行事にしたいものです。及ばずながらご協力させて頂きますので何卒よろしくお願い致します。

久保 豊氏（横浜市）

現在、会社勤めをしておりますので、なかなかお役に立てないと存じますが、私ごときでよければ発起人の件は承っております。使い走りはちよつと不得手ですが、お役に立てることがあればやらせていただきます。

鈴木 和栄氏（練馬区）

関東水上郷友会も百年の歴史を迎えますこと、大変な事だと感動致しております。多少なりとも、お役に成りますればと存じております。数多くの先輩の皆様方の御指導宜しくお願い申し上げます。

能勢 徹氏（埼玉県）

毎年の九段会館での催しの出席率が

悪い私に発起人の大役を仰せつかり、誠に光栄であります。私に何ができるか自信はございませんが、百年という大きな区切りを記念しての大会でありますので、でき得る限りご協力させていただきます。ただく所存でございます。

本年四月末に柏原高校で開催された卒業三十周年記念同窓会の体験を百周年記念大会に生かせればと考えております。また、私事で恐縮でございますが、来年、私は満五十歳になります。私が歩んできた人生の丁度、倍の歳月を関東水上郷友会が経過することを考えますと、また、感慨もひとしおでございます。百周年記念大会の成功をお祈り致します。

井田 悦子さん（流山市）

郷友会創立百周年記念大会を開催なさいますそうで本当におめでとう存じます。発起人とのお話ですが、私に出来ずかどうか不安ですが、皆様のお手伝い程度の事なら何とか出来るかと

存じますので至りませんが、お引受けさせていただく事にいたしましたのでよろしくご指導下さいませ様にお願ひ申し上げます。記念大会が成功いたしますようお願い申し上げます。

仲 一聰氏（練馬区）

私ごときがと思いましたが、日頃お世話になるばかりではと考え、微力ではありますがお引受けさせていただきます。

上田 脩氏（文京区）

氷上郷友会の運営につき誠にご苦労様でございます。さてこの度、百周年記念大会の発起人にご指名いただき誠に恐縮に存じる次第です。誠に微力ですがお手伝いさせていただきます。

山本 紀子さん（三浦市）

記念式典の御手伝い喜んでさせていただきます。たいした力にはなれないと思いますが皆様お忙しい中、御苦労

なさっていることを思えば、小さなことでも分担していただければ、と思います。

若森 敏郎氏（茨城県）

関東氷上郷友会が来年創立百周年を迎えますこと、まことに御芽出とうございます。発起人の一員に選ばれましたこと洵に光栄に存じております。

しかし如何にせん私の場合、海外勤務が不定期に入つて参りますので、相談会などで欠席致します場合も多々あるかも知れませんが、この点何卒お含みお下さいます。よろしくお願ひ申し上げます。

佐藤 菊子さん（国立市）

順調な夏日でございます。お米の出来を思えば暑さも又嬉しでございます。「百周年」とはあらためて深い感がいを感じます。激動の世相の中に六十年、健康を守られ幸せをかみしめたことでございます。

お申し越しの「発起人」のこと私に何が出来るかと少々心配ではございますが引受させて頂くことに致しました。今出現役の身、時間的な余裕も心配ですが出来る事がありましたら是非お役に立ちたいと存じます。

中居 篤子さん（文京区）

日頃この会があることによって、学生時代のなつかしい人々にお目に掛かれることを大変うれしく、又ありがたく思っております。私は日頃何のお役にも立っておりませんが、そんな私にも出来ることがあります。私に出来る範囲でお役に立ちたいと存じます。いろいろ準備に大へんでしようがよろしくお願ひいたします。

葦田 冬子さん（足立区）

毎日お暑い事でございます。老人の私にこの様なお便りを頂きましたことを感謝いたしましてお引受けさせていただきますと存じます。何卒ご指導の程よ



## 発起人賛同者からのお便り

ろしくおねがい申し上げます。

葉山たづ子さん（千葉県）

すっかり御無沙汰して申し訳ありません。一度出席させてほしいなと思いつながら何年かすぎさつてしまいました。この様な私にお声をかけて下さいましてありがとうございます。なつかしい水上郡の方々とお逢い出来る事、楽しみにしております。

依藤 廣次氏（三鷹市）

発起人の件、経済面の御援助はできませんが名前だけでもよろしければ喜んで承諾いたします。連日猛暑が続いております。蝉しぐれの夏の丹波を想いながら、先ずはお返事まで。

藤田 千治氏（入間市）

郷友会は来年をもって創立百周年を迎えるとのこと、ご同慶に存じます。私も東京に出てきて三十七年目となり、この会に入れて頂いてからでも三十年

余りになりませんが何一つお手伝いもできず申し訳なく思っております。ところで本日お受け取り致しました書状の発起人の件、私のようなものでよければ、どうかよろしくお願い致します。これから世話人の方々には大変ご苦労と思いますが、どうか宜しくお願い致します。またこの秋の総会を楽しみに致しております。

勢川 武彦氏（中野区）

来年十一月予定の創立百周年記念大会の発起人にお選びいただきました由、まことに恐縮です。何の力も持ち合わせてはおりませんが多少ともお役に立つことが出来ればと存じます。宜しくお願い申し上げます。

足立 吉雄氏（千葉県）

今度私に発起人の一人として名を連ねるようにとのご依頼を受け恐縮しております。何分にも昨年度の総会出席したのが初めてのことでござい

たので：私の場合、勤務地が千葉の幕張であること及び仕事が営業関係であることからご期待に応えられないのではないかの思いもありますが、同じ郷里に育ったもの一人として喜んでお申し出、お引き受け致したいと存じます。郷友会のみますますのご発展をお祈り致します。

村上 久夫氏（杉並区）

お申越しの百周年記念大会の発起人に御指名賜り光栄に存じます。何らお役に立つ様な事も出来ませんが発起人の末席に連ねて頂きます件、御承諾申しますので宜しくお取り計らい下さい。郷友会の発展を祈念申し上げます。

前田 和氏氏（狛江市）

この度の創立百周年の発起人のことですが、お役に立てないと存じますが三百名の末席でお手伝いできることがあればお任せ致します。何分、夜の制約が多くその点お含み下さい。

谷垣 尚氏（横須賀市）

関東水上郷友会創立百周年記念大会発起人の件、承知致しました。平素は何のお役にも立てず今回も大して役に立たないと思いますが出来る限りご協力させて頂きたく存じます。役員の皆様には御苦労様ですが御健康に御留意の上、何卒よろしくお願い申し上げます。

笹倉 強氏（新座市）

関東水上郷友会創立百周年記念大会につきまして書面をお送り下さいまして恐縮致しております。常日頃お世話になりながら何らお手伝いも出来ず心苦しい思いを致しておりますところ、発起人として推薦いただき光栄に思います。何とか御希望に応じさせて頂きたいと考えております。が、丁度十一月末にドイツベルリン市にて音楽の用（演奏会合唱指揮者交換）がありまして勝手を致しますが準備等におきましては可能な限り働かせていただきました。

いと思えますのでよろしくお願い申し上げます。

三宅 良夫氏（横浜市）

昭和六十三年より三重県四日市に単身赴任しておりましたが、この四月に久し振りに自宅（横浜市）に戻って参りました。現在小田原市に本拠を置く販売会社に通勤しており、厳しい環境の中、多忙な毎日を送っております。

この度創立百周年の記念大会の発起人に指名されましたが勤務地等から時間的にお手伝いが難しいと考えます。永年お世話になっているわが郷土の会の事ですから出席出来る限り協力させて頂き度くよろしくお願い申し上げます。

西崎 祥さん（横浜市）

非力ではございますが百周年が盛会になりますよう精一杯お手伝い致しますので何卒よろしくお導きくださいませ。

近藤 勇氏（市川市）

微力でお役に立つか案じられますが、精一杯努力したいと思っております。

●郷友会事務局より

六月の郷友会理事会で、先ず発起人を組織しようということになり、理事を中心に行えるだけ広く声をかけようということになりました。懇親会によくご出席いただく方、『山ざる』誌にご寄稿された方や熱心にお読みいただいていると思われる方々に、事務局で適宜抽出してお願いしたのですが、このように予想以上の反響があり、係一同喜んでおります。

発起人をお願いした方々には何かと失礼があったかと存じますが、どうかご海容のほどをお願い致します。また以上のような次第ですから、お願いもれの方々も、この際ぜひ発起人にご参加くださいませ。郷友会事務局までご一報賜れば幸甚に存じます。

# ふるさと随想



## 懐郷の弁

久下 梅 次（氷上町）



私は東京在住中、関東氷上郷友会に入会しました。後楽園や横浜中華街での懇親会に出席した楽しい思い出もあります。当時は大槻喬氏や堀川萬治氏等の先輩が活躍せられていて両氏に

は個人的にも大変お世話になりました。

私は氷上町（旧葛野村）三原の出身で昭和三十二年出郷、東京で青果店を営み同五十二年相模原に移住してきました。妻は市島町鴨の庄上牧の出身で三男一女を設けましたが、二人の男児は幼死又は夭折し、現存しているのは長女と三男の二人ですが、それぞれ別居し妻と二人だけの静かな余生です。体のあちこちが痛いと言いながら夫婦とも達者です。

余生とはどこが境目夏最中

出郷後の私の足跡を振り返りますと、私なりに波乱の人生でした。

「男子志を立て郷閭を出づ 学若し成らざんば死すとも帰らず 骨を埋むる豈唯墳墓の地のみならんや 人間到る処青山在り」。

四十三歳を晩しとせず故郷を飛び出して来ましたが、結果は事志とは違い、凡そ功成り名遂げて故郷に錦を飾るとは対照的に、社会の底辺を支える庶民的生活に甘んじ、小さな幸せを求めて日々是好日の生活を送っています。邪欲を捨てて孤高の心境と言えば大袈裟であり、事実にも反しますし負け犬の誹りを免れません。

私の生まれた三原地区は、当時は旱魃村で小作人が殆んどでした。山仕事で生活を立てており、百姓をしながら米を買っている家庭が大部分の貧乏村でした。そんな中で私の父兄弟は力を合わせ木挽でコツコツと蓄財して、私の生まれた頃は一町余の田畑を持つ專業農家でありました。私は小学校高等科二年を卒業しました。葛野のような貧乏村では、尋常科を上がれば丁稚奉公か村に残って山職に就く者が半数近くいました。仮に財産家であっても子弟を教育すれば家を出て行って跡目を継がないという心配から、大体小学校止まりで旧制柏原中学校へ進学する者は村内で年間三名程度でした。現在は敗戦の結果農地開放が行われ、家計も余裕ができ教育関心が高くすっかり様変わりしました。そんな環境の中で私は無理やりに親を口説いて隣村の幸世村に在った高等小学三年に

通学しました。徴兵適齢となり甲種合格で篠山歩兵七十連隊へ入隊しました。

学歴の無い者が世に出るには軍人しかないという一念からこれまた親の反対を押し切り現役志願をして、いわゆる下級職業軍人となり、十年の軍人生活が続くことになりましたが、親にしてみれば爪に火を点すようにして蓄えた家財と家督を長男に託して百姓をやらせたい願ひから、私が軍人になることを必死に反対した気持ちは私にもよく解かりつつ、私は翻意しませんでした。

私は大阪で終戦を迎えましたが、就職口が見つからず取り敢えず葛野へ帰郷し農業に従事しました。親は私が無事帰って来たのを喜び、私も百姓をする気になって篤農家を目指し米作一筋に専念しました。村の米作品評会に何回も入賞しました。軍歴の故に公職追放により農業に専念できた結果でもありました。やがて追放解除と共に部落会長や耕地整理組合長も務め、親も私の定着に安心しました。

そんな私が突然離農上京を決意したのです。心境の変化、それは我がままと言うか軍隊当時の兵種柄（兵種の明示は秘匿しておきます。侵略戦争のお先棒を担いだ過去に恥辱を覚え公言を憚ります）、外地の都市を転々した結果、粗雑に膨らんだ気持が田舎で生涯を終わると思えば窒息するような苛立ちがあり、上京の決意の中には子供達の将来への配慮もあ

りました。当時家族は祖母、両親、私達夫婦、子供三人（長男は生後十ヶ月で死亡）、計八人生活で妹は既に隣町へ嫁いでいました。中風で寝ていた父が私の出郷を思い止まるよう泣いて頼み親族会議を開きましたが、私は翻意せず妹夫婦を強引に養子にして家を継がせ東京へ出て来ました。

当時丹波と東京は海外移住に等しい距離感で、親はこの世の別れと思ったことでしょう。未だ新幹線はなく「つばめ」で上京しました。長男が家を継ぐ因習は強く、村人の敵意を帯びた白眼視は私にとっては四面楚歌でしたが、万難を排し初志を貫く覚悟は出来ていました……。決して自慢になる話ではありません。東京は未踏の土地でしたが、軍隊の仲間は無数居り、取り敢えず上京して彼等に相談しました。田舎で食べて行けるものを無理に東京へ出て来て零落ちぢることは必定だとて誰もが反対する中で、唯一人北京、ビルマで共に勤務した先輩が「出て来い、何とかなる」と賛成してくれたので彼を頼り先ず単身で出て来ました。彼は戦犯で巢鴨プリズンに投獄されましたが、講和条約締結を機に釈放直後でした。最初は北区で慣れぬ鳶職に脚を震わせ、夕方荒川の土手に立って西空を眺め親や故郷に残した妻子を思って涙を流し、弱気になってはならぬと歯を食いしばった毎日が続きました。三ヶ月後に世田ヶ谷の八百屋で三ヶ月間の見習店員をしたあとと独立して店を持ち、生活の目途がついたので妻子を呼び寄

せました。武家の商法で苦勞しましたが、金も経験もない者にとつてはこれより生活の術がなく、真剣に商売に取り組み一時は郷里から店員を呼んで繁盛しました。昭和五十三年廃業して現住所へ移住した時には私が六十四歳、妻五十七歳になっていました。

私の学歴は小学卒でありますので、機会あらば高等教育を身につけたいと考えていました。五十八歳で一念発起して都立上野高校通信制課程に入学しました。それは二男が中央大法学部二年在学中に交通事故死し、学業中途で夭折した息子への憐憫の情抑え難く、息子の歩んだ道を私自身歩いて見たいと思ったのが直接の動機でした。上野高校入試の面接で「高小三」という学制はないから、高校入学の資格がないので中学通信教育から出直すよう指示され、私が高小三卒だと言っても聞き入れられず、当時郷里の農協に居た小学同級生に手配して幸世小学校の高小三の卒業証明書を取り寄せ入学が許可せられたというエピソードがあります。

上野高校を卒て専修大学法学部に入學、引き続き学士入學による同校経済学部、更に商学部と計八年間の通學を了ったとき七十歳でした。私の學問は實生活には直接無關係であつた。教授や心ある知人は資格試験に挑戦するように勧めたが、私の大學親は生活の手段としての學問に就職のためを超越した『學びの場所』であり、それが本来の大學なのである。

この実生活にメリットのない頑固で我がままな願望を成し遂げ得た蔭に妻の理解と協力があつた。Ⅱ部(夜学)ですから午後四時半に家を発る頃店は客が混んできますが妻に任せて登校しました。学校から帰宅するのが十一時、妻は未だ店を開けていて西向きの木枯しの吹き込む店の番をしていました。法学部は世田谷から神田校舎に通いましたが、経済学部以降は相模原から通学しました。現在妻は書道塾を開き、私はシルバー人材センターで就労しその理事を務めています。また大学で経済学部のマルクス経済学コースを専攻するに及び、かつての軍国主義から反戦平和主義に転向、民主団体の下部組織の役員として名を列ねていますが、年齢的に限界です。若い世代に交替したいと思つています。

以上、私の人生の足跡を冗長な拙文に纏めました。振り返つてみますと、若気の到りで自分のしたい放題に生きてきたために、親達家族やその他の自己以外の所謂他人に迷惑を掛け、時には忍び難い苦しみを与えたことを懺悔しています。それはやがて捨てた筈の故郷に対する懐郷の念ともなつてきます。所詮私も平凡な善人なのだ、過去の悪業を余所に性善説的に都合のよい解釈をして自分を紛らわしています。

作家の寺山修司は著書『家出のすゝめ』で、石川啄木の

石をもて追わる、如く古里を出でし悲しみ

忘れやはせず

室生犀星の

ふるさととは遠きにありて思うもの　そして  
悲しくうたうもの　よしやうらぶれて異土  
の乞食となるとても、帰るところにあるまじや

を引用し両者こそ真の故郷主義者であつたと主張しています。人は例外なく、況や故郷を追われ、或は自ら故郷を捨てた者も、故郷を思う心が異郷で生き抜く心の糧となつたに違いありません。気の向くままに好き放題なことを書いて終いました。閑つぶしに一読願えれば幸甚です。関東水上郷友会の益々の発展と皆様の健康を祈り筆を擱きます。

## 幸せな旅路

澤田　みさを(柏原町)

『山ざる』を拝読していつも思うことですが、内容も文章も大変すばらしくて本当に感心させられ、このような郷友方と、会や機関誌をとおして交流させていただけることに感謝しております。私の小さな思い出を記したいと思ひます。

約十七年ほど前に高校に入学したばかりの息子を連れて東京から帰柏いたしました。途中、大阪に立寄り、今は亡き母

も一緒に連れだつての親子三代の旅でした。始終、氷上方面に帰郷できる方にはご想像もつかないこともわかりませんが、私にとつては二十年ぶりに帰る、懐かしさで胸が痛くなるような柏原への旅路でした。昔のままの駅に降りたつと空気までが、関東とは違う穏やかでしつとりとしているように思われました。今ほど車も多くなかつた時代だったのでしようか、私の脳裏の柏原そのままの静かで美しい町のためには、たずまいでした。(その後、十年ほど経て同期会に出席するために帰つたときは、道路も広くなり、車が行き交ひ、見えるように活気のある町に変わったように思えましたが)

疎開中世話になつた伯母の仏前に手を合わせ、先祖のお墓参りをし、二、三の旧友ともお会いでき、母子三人でゆつくりと町中を散策し、一泊いたしました。並んで歩いている息子と同じ位の年代に戻つた自分が、木の根橋の上から勢いよく流れる川を見ていたり、高校の校庭の大きい楠の樹の下に佇んでいたり、八幡様の境内の白い椿の花を見上げていたり、そこそこ幻のように見えるような気がいたしました。母にとつては柏原の暮しは、見知らぬ土地で父と離れ、食料難の中を育ち盛りの三人の子供をかかえてのことでしたから苦勞もあつたことと思いますが、大変よるこんで、娘と孫の間で終始にこにこして目を細めていたのが忘れられません。

登山や自然の中に居るのが好きな息子も、母親の育つたみ

どり豊かな町を気に入つたようでした。晩年の両親とは遠く離れて住まざるを得なかつた私のさやかな親孝行……というより私自身が一番幸せだつた旅でした。

## よみがえつた故郷

小笠勝啓(春日町)

鮮かな白の三本ライン。金ピカの校章と白い麻地のキャップをつけた黒い制帽。海軍兵学校の礼服を思わせる濃紺サージの詰襟。きわだつて目立つ濃緑色のゲートル。黒く艶光りした編上靴、これまでの大阪府立中学と柏原中学校の制服とは全く異質で対照的なものだった。

つい今しがた、中学二年の編入テストをすませ、先生方に転校の挨拶を終え、今日から学ぶ教室を廊下ごしに眺めていた。この姿が上級生の目に格好の標的と映つたに違いない。早速、寄宿舎裏の人目につかぬ場所に連れこまれ、中学生とは思えぬ程の大柄で、ニキビづらの数人から「戦時下に似つかぬ服装はけしからん」とそれぞれ一発づつ、力一杯のビンタを蒙つた。

戦時疎開令により、強制的に立ちのきを命じられたが、住

居のあった大阪の中心地では、儉約と耐乏生活が声高に叫ばれていたにも拘らず、まだ衣、食、住には余裕があった。府立の中学では、服装も戦時下の統制からかけ離れたものがあり、下級生に対する上級生の理不尽な制裁も全くなかった。それだけに、転校早々にうけた驚愕は、仮住居のあった屋敷町の自然の美しさや、名門と聞いていた柏原中学校への親近感を一挙にくつがえし、野蛮さとみじめさを深く心に植えた。

田植えと稲刈りの時期には、出征のため人手の足りぬ船城の農家で、勤勞奉仕に従事した。生まれて初めて経験する田植えでは、かたむく苗が多く、ぬかるみに足をとられ、牛の引くソリに追いつけず、足首に食らいつき血を吸うヒルに悩まされた。

稲刈りでは、カマでの刈り取り、結束、高い乾架台への振り分け、脱穀作業、牛の行水など、まだまだ慣れぬ仕事を、暗くなるまで懸命に手伝った。

しかし、くたくたに疲れたあとの、銀白色に光る握り飯のうまさは、老夫妻の感謝といたわりの言葉とともに、今でも忘れ得ない。

丹波の冬は、現在と異なり雪が多かった。一メートルを超え、積雪に足をとられ、通学もままならなかった。砂袋を入

れた背囊をかつき、木の根橋の巨大な樫の近くから八幡山の拝殿まで、速歩で雪の石段を反覆して、上り下りする雪中訓練は、ずぶぬれの足が凍り、無感覚になる厳しい試練であった。

春には鐘ヶ坂から奥野々峠の近くで、供出する薪づくりや炭俵の運搬作業にとりくんだ。朝早く霧の立ちこめる険しい山肌を、きこりの風情よろしく、這い登り、急斜面に群生するくぬぎや松、杉に挑戦した。

太さが一〇センチ位までの小木なら、自分が持参したノコギリやナタで切り倒し、長さを揃え、割り裂くこともできたが、二〇〜三〇センチの太木では、切り倒すことも、ブロックにすることも、割り裂くこともできなかった。

地元の大柄な級友が持参した大ノコや、長柄の大ナタで太木を切り倒す地響きは、勇壮であったが経験と力が必要で、自分はただ見惚れるだけであった。大ナタを借りて力一杯振りおろしても、刃がブロックに食い込み、割り裂くことはできなかった。

炭焼用の伐採でも、一人前の作業はできず、仕上げた薪や炭焼ガマからの炭俵の運搬も、急斜面での足の滑りと非力のために、級友たちの半分位を運び出すのが精一杯であった。

中学三年の四月から、学徒動員で校舎に備えつけた旋盤やミールを運転し、ペアリングの製作、組立にたづさわった。



主として航空機に使用するベアリングで、高い精度が要求されたが、二ヶ月程度の実技指導により、熟練工に匹敵する技能を身につけた。しかし六月になると、スウェーデンから輸入したSKF鋼材の在庫がなくなり、国産の鋼材を使用せざるをえなかったため、使用時の磨耗が早く、中学生ながらも戦争の継続に、一抹の不安を感じるようになった。

八月十五日、終戦の玉音放送は、深夜勤務から帰宅し、睡魔の中で、悲嘆というより、ただ茫然と聞き入った。

終戦後、徐々に学業は正常化したのが、教科書もノートもなく、ガリ版刷りの教材と敗戦の虚脱感から、四年生の中頃まで勉強らしい勉強はしなかった。

大阪に住み、B29の空襲で、二度も命を失ないかけた大学生の兄とくらべ、丹波に疎開できた自分は、平穩な中学時代を過ごせた。

農作業や山作業、工場動員は、都会育ちの自分にとっては、暗く、辛い日々であった。しかし還暦も過ぎた今では、辛い思いは全くなき、楽しかったことしか記憶にない。

上級生は、さすがに今でもなじめないが、親切に力を貸してくれた多くの級友や、工場動員中、いつも優しく笑顔で対応してくれた女子挺身隊の皆さんには、感謝の気持で一杯である。

卒業後は、進学、就職で丹波を離れたため、丹波での生活

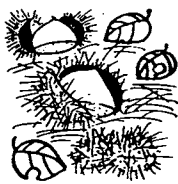
は、中学時代の僅か三年半に過ぎない。その間、戦中、戦後のどさくさで、衣、食もままならず、精神的なゆとりもなく、生まれ育った土地でもなかったため、自分には今迄丹波が故郷ふるさとといった感慨はなかった。

しかし七年前から、田中篤郎君や池上巨泰君等のお世話で、在京の柏原中学校、柏原女学校の同期生が二三四（ふみよ）会をつくり、年に一〜二回、泊まりがけや日帰りの懇親会をもち、丹波を語りあう機会が多くなった。

加えて今回、『山ざる』編集部の渡辺さんより投稿依頼をうけ、なつかしい中学時代にタイム・スリップした途端、不思議に丹波が自分の故郷、という気持ちになった。

中学時代に焼きついた想い出と、美しい山河は生涯つきまとい、離れることはないであろう。

これからは、出来る限りひまを見つけて、丹波にも足を延ばし、よみがえった故郷ふるさとの一員として、旧交をあたためたいと考えている。



# 父と丹波柏原教会

宮野 近（柏原町）

昭和二十年、牧師であった父（伊吉）が被爆死して満四十九年の歳月が流れた。今年の五月一日（日）「五十年追悼記念会」を催すので帰柏するようにとの母の命令。家族で私だけが洗禮を受けず神から遠ざかっていることに不安を感じながら、恐る恐る帰郷した。案の定、放蕩息子が帰って来た……と暖かい持て成しであった。

朝十時から正午まで日曜禮拜。四十年ぶりの讚美歌も唱和不能。説教は、私を狙い撃ちするか如く「神を信じない者には聖言も愚かしい」とのこと。午後一時からは自宅で記念会。奥沢牧師をはじめ信者二〇余名が参集していただいた。聖歌・祈祷・聖句・頌栄と続く訳だが「主よ、みもとに近づかん」の合唱時は落涙を禁じ得なかった。父が昇天の前夜、日赤の病室で独り静かに口ずさんでいたのを想い出したからである。その後墓参。またまた聖句・祈祷・聖歌が延々と続く。かくして太陽が西に沈む頃、難行苦行の一日は終わった。さて、現丹波柏原教会のルーツは大正八年アメリカ宣教師 J・B・ソントンの丹波伝道に始まる。大正十一年旧柏原女

学校に「日本自立聖書義塾」が創立された。父は大正十年、十五歳のとき、千葉の成田から銚子の小島師に連れられて一期生となった。この義塾は、アメリカンスピリットを根底に、自立と開拓者精神を養い、研究・労働・伝道の実践の毎日であったと聞く。午前五時から祈祷・聖書講義。午後はバターの製造・販売。夜は丹波各地の路傍伝道が深夜に及んだという。



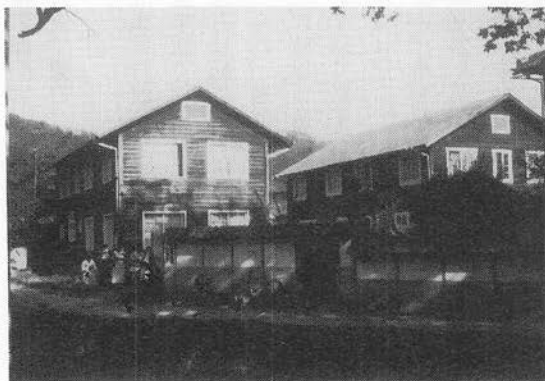
父は昭和三年より十一年まで鎌野師と一緒に牧会を務めた。その間、昭和九年に義塾は木の根橋に移転。私は昭和十一年権現山の大火の日に禮拜堂の二階で生まれた。命名者は小島師で、ピリピ書の「主は近し」。当時の会堂・牧師館・工場・木の根橋・奥村川・八幡



女学校前にあった日本自立聖書義塾



布教活動に向かう伝道隊



木の根橋横の教会

山は私達の絶好の遊び場だった。伝道に使う大太鼓・小太鼓・トランペット・トロンボーン・タンバリン……など持ち出して叱られた。

その後、時代は軍国主義一色に染まり、官憲等の弾圧と迫害に耐える信者受難の時代。敗戦後、イギリス伝道隊のサベル、マコミック、クラーク、阿部、岩内、丹羽……等の各師（姉）が来柏、教会は女の館となった。

昭和三十年柏原教会は現在の日赤前に

再移転した。

教会誌「インマヌエル」には、大勢の信者の方々の生々しい体験記が多数掲載されている。それに依れば、奥村川は「聖霊の川」であり、柏原は「信仰の宿る里」とのこと。「信ずることは人生の最大のプラス、信じないことは最大のマイナス。残された人生を神と人とに愛される生涯でありたい」……

の一文が私の胸を突きさした。  
いざ帰りなん 神のみもとへ!!

# 田健治郎 略伝

## 宮野 近 (柏原町)

明治二十八年(一八九五)に、関東水上郷友会が創設されて、来年で百周年を迎えます。その生みの親ともいべき、田健治郎氏の伝記の一部を紹介します。

田健治郎氏は、安政二年(一八五四)二月八日、父文平・母長喜の次男として柏原に生まれました。兄は艇吉氏。十歳で篠山藩儒・渡辺弗措の塾生となる。十三歳で江戸に遊学し、篠山藩邸に矯居。十六歳小島省斎の塾に入る。十九歳和田小学校を創設。二十歳から熊谷県庁・愛知県庁に勤務。二十五歳高知県令代理。二十九歳神奈川県警部長。三十六歳通信省文書課長兼大臣官房秘書課長。三十九歳郵務局長・通信局長。四十二歳ブタベストで開かれた万国電信会議の全権。四十四歳通信次官・関西鉄道(株)社長。四十七歳衆議院議員。四十八歳水上郷友会副会長・衆議院議員に再選される。四十九歳再度、通信次官。五十二歳貴族院議員。五十三歳九州炭硯汽船(株)社長。五十七歳東邦火災役員。六十二歳遞信大臣。六十五歳台湾総督。六十七歳水上郷友会会長。六十九歳(大正十二年)関東大震災時、農商務大臣兼司法大臣。七十一歳電気協

会会長。七十二歳樞密顧問官、この年昭和と改元。昭和五年十一月十六日七十六歳で薨去。以上が年譜です。

「讓山・田健治郎氏は丹波に生まれ、幼時穎悟、漢学を修め、嶄然として儕輩を抜く。弱冠志を立て東都に出て熊谷県庁に出仕、爾来、地方に転々十余年、到る処に頭角を顯し、後藤通信大臣に認められ、通信次官として日露戦役に特功あり。議員として盛んに政界に活躍したび閣臣、台湾総督、樞密顧問に任せられ官を以て薨す。その遺徳は永遠に伝へらるべきものなり」と序文は記しています。

次に、郷友会関係の記事を紹介します。明治三十五年四月崇広小学校で水上郷友会を開いた。町長山下銀次郎氏以下四十余名列席。織田信親氏を会長に、田健治郎氏を副会長に、京都支部長に津田謙介氏、大阪支部長に田艇吉氏、神戸支部長に野添宗三氏、水上支部長に宍戸秀策氏を推薦し、委員二十六名を選定した。同年五月、在京水上郷友会を上野・無極亭に開催し、来会者二十九名が歓談した……とあります。また、大正十年十月には水上郷友会を多摩川の萬象閣で開催し、在京郷友九十余名歓談した……とも記されています。

当時、在京郷友会の集いはもっぱらこの萬象閣が利用されていたようです。玉川村の萬象閣は多摩川の高地を占め、富士の靈峯・甲信の連山を望み、多摩の清流を俯瞰し、風光明媚

媚にして四季の情趣に富む処……とのこと。世田谷上ノ毛の現五島美術館がそれで、南面の庭は今も当時の面影を残している。

身を吠猷より起し、藩府に憑らず、党縁に縋らず、独立特行して次第に顯位に進み、入つては國務大臣となりて政務に当り、出ては総督となりて間外の大任に服し、遂に樞府に入りて、身を終るまで中外の重望を荷ひ、国事に盡瘁せしことは洵に後世の師表である。

志遂げ名顯はる暝して遺憾なかるべし。……との言辭は端的にその生涯を言いあらわしています。

名士談によれば「官僚政治家ではなく、民衆政治家であつた」「頭腦明晰・觀察力鋭利・弁論に達し、音吐朗々、敵を圧するの概があつた」「余技として囲碁を好み、詩文を良くし、雄健な書を書かれた」「官に民に行くとして可ならざるはなく、適せざるはなかつた」……等々、枚挙にいとまありません。以上郷土の大先達、田健治郎氏の足跡の一端を紹介しました。



## 丹寿莊の母を想いて

青木 修 (市島町)

東京発朝六時十三分の「ひかり」に乗れば、京都で山陰線の「あさしお1号」に乗り換えて十時二十五分に福知山に着く。丹波竹田までは、あとひと駅だ。ゆっくりと列車を降りて、次の上りを待つ。懐かしい知り合いの顔をさがしながらベンチに腰掛けて待つこと小一時間、上りが来て、十一時半頃ふるさとの駅に辿り着く。

私のふるさは市島町竹田。山と川に挟まれた田んぼの中の山裾にある。列車が近づくにつれてこの山が大きくなり、そして実家の二階の瓦屋根が見えて来る。ホームに降り立つてフーッと一息、都会の空気を吐き出してふるさとのおいしくやさしい空気に入れ換える。それから、帰ってきたヨと云わんばかりに、やわらゆつくりと歩き出す。川にかかった橋の上にさしかかると川の中を覗き込んで魚が泳いでいるのを確かめる。時折すれちがう村の人の車に軽く会釈しながら田んぼの中の道を歩いて十五分程でなつかしの我が家に着く。

が、そこには今は、父も母もいない。父は私が学校を卒業して会社に入った年の翌年の春に、末息子を社会へ送り出す

まではと頑張ってくれていたかのように他界してしまった。母は、明治四十三年生まれの八十四歳で、まだ頭の方は多少しっかりしているものの、足腰が弱り身体が痩せ衰えて一人では立つこともできないため、三年程前から市島の特別養護老人ホーム丹寿荘でお世話になっている。遠くにいて、いつも何もなければよいがと身の上を案ずるのはこの母のことであり、近くにおいて世話するのも見舞うこともできないことを済まないと思いながら、実家に着くと一休みする間もなく兄の軽トラを借りて母に会いに行く。

「おかあちゃん、帰ったでエ。元氣やったか。どこも痛いところないか」

「あアようかえっとくれた、とおーいのに。いつまでおるんや。またあしたもきとくれるんか。ゆみちゃんやらひろみちゃんはー……」

「由美は仕事でいそがしいんや、広美は学校があつて帰られへん」

「あアそーか、なつやすみになつたらゆつくりかえしてやつとくれ」

そんなことを言いながら、前庭の芝生の中を好きなように一時間ほど車イスを押してやる。年老いてヨボヨボではあつても何とかして生きていくれて良かったと思う一瞬である。

丹寿荘は市島駅の裏の高台にあつて、そこはとでも陽当た

りが良く、静かで空気もきれいで、老人には申し分ない環境である。そこでは、感じの良いハキハキした介護の人達が一所懸命世話をして下さっている。その世話だけでも大変だと思ふのに、ここでは「寝たきりゼロ」を標榜して、毎月いろいろなレクリエーションや催し物をしたり、近くの小学校の子ども達との交流会や、又、できる人には小旅行や買物ツアーなどの楽しみも企画したりされていて、いろいろと考えて下さつており、本当に頭がさがる思いだ。母もお蔭様で穏やかに過ごさせてもらつており、この上は一日でも永く長生きをして、子や孫の目標となるよう最長不倒距離を延ばしてもらいたいと思つている。

私は昭和四十年にふるさと竹田を離れ、遠い富山で下宿生活をして学校を卒業し、就職して三年目に春日町出身の妻と結婚して大阪と奈良に住み、会社合併の苦勞も味わいながら昭和五十九年に東京転勤で埼玉県和光市に移つてきた。いずれば住めば都となるが、いまだに週末は埼玉や群馬の山や川に出かけることが多く、都心にはなかなか足が向かない。小さい頃にふるさとの山や川で遊んだときの想い出が今でもつい都会の喧騒を避けてしまい、母のようにやさしい自然のふところへ飛び込みたいと思わしているのかも知れない。

今や東京とふるさとをつなぐ交通手段はいくつもできて便利になつた。鉄道は最短コースの京都廻りが接続の加減にも

よるが一番速い。万一の時には飛行機も使える。高速道路ならその気になればいつでも行ける。会っていても口には出さないが、東京にいても、何かあったらいつでも飛んで帰るから、おかあちゃん、安心しとんナノ

## 二十年ぶりの再会

広内康邦（山南町）

いつのまにか二十年が過ぎ去っていた。空梅雨とはいえない蒸し暑い七月の夕刻、六本木七丁目の路地を少し入ったところにあるクラブで高校の同級生三人と待ち合わせる事になっていた。約束の時間の少し前に店を探しながらそれらしい筋に入ると、何とも懐かしい二人の顔が出迎えてくれた。ひとり山南町金谷出身で防衛庁に勤務する村上君、もうひとり春日町黒井出身で某電気会社に勤務する谷垣君であった。幹事役の友井君（山南町阿草出身で某農薬会社に勤務）は四五分遅れて現れたが、三〇メートルほど先にある筋の入り口からこちら側を窺っておきながら、我々の顔に昔の面影がなくなっていたのかあわや通り過ぎてしまふところであった。後からわかったことであるが、このクラブに来るのは四

人とも初めてだったのである。六本木のそれも初めて訪れるクラブで待ち合わせるといふのは不安と同時に一種のスリルも感じることをこの時思い知った。ただし、そこには二十年振りにクラスメイトと再会するという特別な演出効果があったことは否定できないが。

その日再会したのは、昭和四十九年に柏原高校三年六組（当時Cコースといって理科系進学コースになっていた。我々はその授業についていくのに大変苦労した仲間であった。）を卒業した同級生である。話が進むにつれて私は普段の友人との間で昔話に花を咲かせるのは少々勝手が違うことに気づいた。一体何が違うのだろうか。いつもならお互い近況報告をするにしてもせいぜい過去四五年を溯って記憶を辿れば事は足りるのだが、今日はそうはいかないのである。人生の間で最も変化が激しいと思われる十八歳から現在までの二十年について事細かにそれも順を追って記憶を辿りながら説明するのは並大抵のことではないことを思い知らされることになった。

「昭和四十九年は西暦でいうと何年だったかな？」「あれは確か一九七四年やなかったかなあ。」「ということとは、今年でちょうど二十年ということか？」ここに至ってはじめて高校卒業後まる二十年振りの再会であることに一同気づいたのである。

その夜の話の中で、当時の恩師の多くがもう既に定年退官されているであろうこと、故郷または県下で暮らしている同級生の数が自分たちの予想以上に多いことなどを懐かしく確認しあつた。「やつぱりこれは地元に戻っている誰々に頼んで今年の暮れにでも二十周年の同窓会をやるしかないなあ」「それにしても、幹事に向いていそうな奴に限って遠くにいつているか消息が分からんようになってるな」（まるで他人ごとのように言っている谷垣君の顔を見て私は笑いをこらえるのがやつとであつた。）そんなこんなで、是非とも近い内に同窓会の手筈を地元の誰かに働きかけること（自分たちで幹事ができないところが故郷を離れて生きている人間の悲哀か）、夏が終われば再びこのメンバーで再会することを約束してその夜は散会した。

最後に、二十年振りの故郷での同窓会が実現することを念じてこの稿を閉じることになります。『山ざる』読者の中にもしこの拙話にでてくる人物に覚えのある方はどうぞご連絡ください。



## ふるさと青垣

飯田光雄（青垣町）

四月に帰省いたしましたときに少々時間がありましたので青垣町内をあちこちたづね歩きましたが、その変化の大きさにびっくりすることはかりでした。

敗戦の色濃くなつた昭和十八、九年頃、毎日小学校からクワやモッコをかついでイモ畑を作るために開墾に行つた「くらまち」の山にも行つてみました。上級生が懸命にクワをふるつて開墾し、下級生は掘り起こした石を運んで猪よけの垣を作つた場所も今は定かではありませんが、すっかり立派なハイキングコースになり『丹波少年自然の家』などの施設がととのい、京阪神からも多くの人が訪れているそうです。

さらに、ここから山頂までの五、六キロも立派な舗装道路があり車で頂上まで登ることができました。そこにはハンダグライダーの基地があり、ちようどその日はパラグライダーの競技会で色とりどりのパラグライダーが飛び立ったり空中を舞っているのを見ることができました。競技を楽しんでいる人達と色々楽しい話ができ、あらためてふるさと青垣の自然





ハングライダー基地から西芦田、佐治方面を望む

のすばらしさを教えられました。(余談ですが一〇分間一万円でインストラクターがついて体験飛行ができるとのこと。次回にはチャレンジしてみようと思っています)

まだ冬の残雪が山のあちこちにあり、山頂から佐治・遠坂・神楽・西芦田なども見え、この素晴らしいふるさとを持つ幸せを身体一杯に感じた一日でした。

## 旧友と出会える日

山岸 幸子(水上町)

「月日は百代の過客にして行きかふ年もまた旅人なり」

生まれ故郷、水上を出てから三十年、就職、結婚、育児、復職と、次々に押し寄せる人生の大波に立ち向かっている間に、まだまだ若いと思っていた私も気がつくといつの折り返し点に差しかかるうとしている。また、二人の子供もいつの間にか親の手から飛び立とうとしており、まさに光陰矢の如しである。一瞬の内に過ぎ去った若かりし頃のことを思い出している、確か高校一年の時教わった『奥の細道』の一節がふっと浮かんできた。教えて頂いた先生の名前がどうしても思い出せないが、その頃のことを考えていると、次々に懐かしい顔が浮かんでくる。この春、同窓会の通知を頂いたが、あいにく都合が悪く欠席し、皆に再会できる折角の機会を逸してしまった。今頃、皆、様々な所で頑張っていることだろ

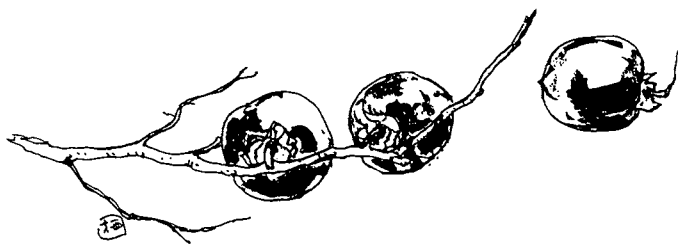
う。

高校時代、氷上町方面からは自転車通学が主で、私も雨が降っても雪降りでも当然のようにして四〇分位の道程を三年間通った。たまに帰郷した折には、懐かしい通学路を車の中から眺めながら昔の面影を探してみるが、道路や町並みの姿貌ぶりには驚くばかりである。入学したばかりの頃、真新しい制服にピカピカの自転車で友と語りながら登校中、話に夢中になってお互いのハンドルをからませて転倒し大笑いしたこと、今では良き思い出になっている。その頃は車の数も少なく、現代の登校風景とは比較できない位のんびりした良き時代だったのだ。その良き時代の産物である私たち丹波人は、何年経っても、どこに住んでいても、郷土愛はいつまでも変わらないような気がする。

帰郷しても父母はもう待つてはいないが、私にとって生まれ故郷、氷上はいつまでも忘れられない大切な所である。これからも何かにつけ実家を煩わすことだろう。そして、いつかまた友達と出会う日を楽しみに、明日も頑張ろう。



写真提供：田中 茂雄氏（氷上町）



## スウェーデン・ガラスの思い出

生田清弘（柏原町）

白夜の国、森と湖の国スウェーデンでガラスの本格的な制作活動がはじまったのは、ヨーロッパの他の国々よりも比較的遅く、ベネチア、ボヘミアに学びながらその基礎を築いてきたといわれる。

しかし、二十世紀に入ると主だったガラス工場では優れた画家、彫刻家や建築家などのアーティストを積極的に迎え入れ、職人達と渾然一体となったチームワークにより、卓越したデザインと斬新な技法が相次いで開発された結果、スウェーデンのガラス工芸は著しい進歩を遂げ国際的にも多くの注目を集めるようになった。

私はある機器メーカーと業務提携を結ぶため昭和六十三年にスウェーデンに行き、翌年にも国際会議に出席するため訪れたが、その帰途この国の代表的なコスタ・ボダとオレフォースのガラス工場を見学した。コスタ・ボダでまず最初に案内されたのは、私共の提携先の社長の従妹にあたるグンネル・サリンさんの研究室であった。彼女はストックホルムのナショナルカレッジ出身の著名なグラスデザイナーであるが、

彼女の個室の中はデザインテーブルを中心に、自らの作品と共に資料が沢山置かれていて研究に対する意気込みを肌で感じることができた。コスタ・ボダではこのような個々のデザイナー専用の研究室が、空気の澄みきった緑豊かな環境の中で工場に併設されており、デザインと制作活動が綿密な連携のとり易い状況下で進められていて羨ましく思った。この工場は一七四二年に設立され二世紀以上を経た今日も創立当時のガラス職人の子孫が伝統と技術を受け継いで、王室をはじめ世界の美術愛好家に自信に満ちた作品をおくり続けている。

ここのトップデザイナーの一人であるバーティル・ヴァリー氏は世界で最もよく知られたグラスアーティストといわれ、その豊かな創造力により生み出された作品は、スウェーデンは勿論のこと海外でも数々の受賞の栄に輝いている。また彼の妻であるウルリカ・ハイドマン・ヴァリーさんはグラスデザイナーとして有名であるばかりでなく、陶芸家、画家としての評価も高く、フラワーヴェイスやボウルに独得の顔やスネークなどを描いたものが知られている。

グンネル・サリーンさんから訪問の記念としてフルーツディッシュとフルーツのセットをいただいたが、淡い色彩の爽やかな作品である。また、ヴァリーン夫妻の作品（ギャラクシーブルーと、ブラックマジックのいずれもポトル）を買い求めたが、それぞれスウェーデンガラスの特長ともいえる落ち着

いたデザインの、窓際によく似合うもので実に楽しい。

オレフォースも歴史と伝統を誇るガラス工場で著名な専属デザイナーと共に優れた工場技術者や職人を擁し、際立ったデザイン感覚と熟練した技術はつとに有名であり、メトロポリタン美術館をはじめ各国の美術館にもその作品が展示されている。オレフォースのデザイナーの一人であるエリカ・ラガーヴィエルケさんに私が同社を訪問した同じ年の同じ月に奇しくも日本橋・三越で逢っており、その時は買い求めたインターメッツオブールというワイングラスにサインを刻んでもらい、オリジナル作品のデザインペーパーもいただいた。大変気に入っている瀟洒なグラスである。

平成五年一月、「スウェーデンガラスの美・名品展」が三越において催されたが「芸術家のユニークな感性とガラス職人の優れた技術との美しき融合」とのキャッチフレーズのもとに、二十世紀スウェーデンガラスの黄金時代の二八〇余点の作品が展観され連日参観者で賑わった。その中で彫刻「王子様のおもちゃ」と題した大変ユニークな作品が目玉であったが、バーティル・ヴァリーン氏の一九六五年のデザインによるもので、オレフォース・ガラス美術館所蔵のものであった。この名品展をみて作品個々の優雅さもさることながら、スウェーデンガラスの発展の過程をふり返り、また訪問時の素晴らしい工場環境などに思いを馳せた次第である。今日スウェー

デンの殆どのガラス会社はスモーランドに集中しているが、その理由はこの地域が広大な森と、湖や河川の豊富な水源に恵まれたことによるもので、ガラスの溶解炉には燃料として膨大な木材を必要とし、カットガラスの生産やガラス原料の粉砕のための水車の動力源として水が欠かせなかったからである。かくてスモーランドのクリスタル王国が出現したわけであるが、スウェーデンのガラス作品をみていると自然に森の彼方の澄みきった空や綺麗な水が思い出されてくるのは、ひとりこうした歴史的背景の故ばかりでなく、この国の美しい環境がイメージされているように思えるのである。

## 柏陵同窓会館建設にご理解を

植田 憲雄（柏陵同窓会会長）



関東氷上郷友会の皆さんの郷里も急激な社会状況の変化の中で大きく変貌しようとしています。

その中であって、「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じか

らず」と、中で活動する人、校名そして校舎の姿こそ幾多の変遷を経ながらも、その建学の精神は今も継承され、氷上郡内のシンボルとして着実な発展の歩みを続けているのが県立柏原高等学校であります。

柏原高校卒業の皆さんも卒業生でない皆さんにも郷土氷上の思い出の一つとして心のどこかに去来しているのは「柏中」「柏女」「柏高」ではないかと推察いたします。

その柏原高校が平成九年（一九九七年）に百周年を迎えることになっていきます。

明治三十年（一八九七年）に、この草深き丹波柏原の地に、県下でも率先して、若き優れた郷土の子弟のメッカとして、創立されて一世紀を過ぎ、その発展の過程は我が国の歩みそのものとも考えられます。卒業生の数も現在では三万一千有余名となっています。

意義ある百周年記念事業を成功させるべく、同窓会、学校当局、PTAでは逸早く百周年記念事業実行委員会を組織し活動をはじめております。その中のメインの事業として、同窓会館の建設を計画しております。

県下二百校に達する公立高校でその歴史が七十年以上になる伝統校では同窓会館のない学校が少ないこと、また次々と入学してくる後輩の若人に幾多俊秀の先輩の足跡やその心意気を伝えるための記念館の必要性を考え、経済情勢は最悪の

この時期ではありませんが、敢えてその建設を計画した次第であります。

この会館は単に卒業生の利用施設だけではなく在校生の研修活動・合宿活動や学校開放が強く叫ばれている時期に地域社会の文化活動の拠点としても幅広く活用してもらいたく思っております。

二十一世紀に向けて氷上郡の中心地の柏原に新しい伝統の創造と新しい人材の育成にこの会館の果たす役割と意義は非常に大きなものがあると確信しています。

募金活動は概算三億五千万円の目標で平成五年度中に約六〇％強の多額のご賛同を得てそのご厚情に感動し、感謝申し上げております。

現在は募金活動の期間を一年延長し、平成七年三月末日までの免税措置等の手続きも終え、尚一層のご協力を期待しているところでもあります。

関東氷上郷友会の皆さんには遠く異郷の地にて会館の利用機会も少ないとお考えの方もあろうかと思いますが、何卒趣旨をご理解いただきたく願っています。

名前は同窓会館でありましたが、その利用は前述のように広く活用していただき、氷上郡の若人育成を目標にしておりますので、同窓生の方だけでなく郷土出身の多くの皆さん方の温かいお力添えを重ねて懇願する次第であります。

## 田舎と都会の「山ぐる」

小田 晋 作（柏原町）

一九六六年（昭和四十一年）に日本経済新聞社に入社し、七五年まで五年間、東京本社にいましたが、他はずっと大阪本社と地方支局勤務で、今春十九年ぶりに東京に来ました。どうかよろしくお願い申し上げます。

久しぶりの東京の印象は、ますます市街地が広がり、立派になったということです。同時に、人の多さに今さらながら圧倒されます。地下鉄がめざましく整備され、JRや私鉄の輸送力も随分増強されましたが、それでも通勤ラッシュのすさまじさは以前とそう変わりません。便利になった分だけ人も増えたのでしょう。

四十年以上前に作られた小津安二郎監督の映画「東京物語」の中で、田舎から上京して来た笠智衆、東山千栄子の老夫婦が人ごみのすごさに「こんなところではぐれてしまうたら、一生かかっても会えませんなあ」「うん、うん」と驚き合おうシーンがありました。人口の増加と都市基盤整備は、いつまで「たちごっこ」を続けるのでしょうか。

しかし一方、最近の人口調査で東京都は前年比マイナスに

転じ、神奈川県、千葉、埼玉を加えた四都県でも増加のペースは鈍化していると報じられています。首都圏への人口集中もそろそろ限界に近づいたのかも知れません。

東京、大阪のほか金沢、新潟、福島で勤務した体験から言いますと、人口が三十万〜五十万人くらいの町が最も暮らしやすいと、私には思えます。金沢や新潟は伝統のある医科大があるせいか、人口に比べて医者数が多く、身近に優れた医師を選択できる。また新潟や福島は自然に恵まれた生活をしながら、東京に新幹線で日帰りで遊びに行けます。

東京は地価が高すぎるため、進出してきた外国企業が撤退し始めた例も耳にします。これからの日本経済が国際競争の中で活力を失わずに生き抜いていくためには、一極集中を抑え国土のバランスある発展をいよいよ真剣に考える時期に来ていると痛感します。

また、交通や通信網が発達した今、都会と田舎との交流やネットワーク作りも一層大切になるでしょう。双方の長所、短所を知っている「山猿」の私たちが果たせる役割は決して小さくなくなると思う次第です。

## 奈良学園都市のこと

酒井重男（柏原町）



かく迎えてくれ、帰ると心が和みます。特に、今回は夜遅くなったこともありませんが、夜空の星の輝きはすばらしく、東京では到底眺めることのできない美しさでした。実家はすぐ裏が山になっていきますので、朝はウグイスの鳴き声とともに目を覚ますことができました。丁度、帰った時は関西地方の気温は最高でしたが、日が沈むと気温は下がり冷えてきて凌ぎやすくなります。

実家は柏原高校のすぐ後ろにあり、いつも学校を眺めながら横を通って帰りますが、現在は昔に比べればプールもでき学校の敷地は随分広くなりました。中学、高校は近かったのでサイレンが鳴ってからでも間に合う位でしたが、戦時中は

毎日学校に行かず山に薪作りに行つた思い出があります。

さて、私は東京に移り住んでもう三十数年になります。大学を卒業後、数年大学に残っていました。その後、水処理プラントメーカーで働くようになり、平成三年に退職致しました。退職後は会社の技術顧問をしながら、技術コンサルタントの仕事をしております。

日本技術士会生物工学会では毎年夏に関西の研究機関の見学を行っており、今年も奈良学園都市を訪れましたので少し紹介致します。奈良学園都市は奈良県、京都府、大阪府にまたがり、山を切り開いた広大な土地に奈良県生駒市を中心に三十八万都市を目指し展開されています。丁度、関東の筑波学園都市に似ており、国と民間を合わせ約六十の研究機関が進出することになっています。

今回、見学したのは(財)地球環境産業技術研究機構(RIITE)と国立奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)の二か所でした。RIITEは人類の限らない繁栄と地球環境の保全のため、炭酸ガスの固定化、地球に優しい工業プロセス、地球に優しい物質などの開発が行われています。また、NAISTは大学院だけの大学で、先端技術である情報科学研究科とバイオサイエンス研究科があり、今年からスタートしました。バイオサイエンス研究科は定員百二十五名のところ、約五倍の学生が全国から受験したようです。学生の三分の一

は企業からの内地留学の社会人で占められ、個性豊かな学生が集められています。学内はスペースもゆつたりしており、研究設備は世界のトップクラスの機器が備えられていました。数年後のすばらしい研究成果に期待したいと思います。

ところで、いつも帰郷の際は帰りに同級生の吉田君が経営しています三友堂に立ち寄ります。彼は二年前に大病したと聞いていましたので気になりましたが、今年も元気な顔を見ることができました。彼の話によりますます同級生も健康を害している人達が増えてくるようです。また、来年、元気に再会できることを祈りながら柏原をあとにしました。

## 老い

### 下中昭男(山南町)

丹波の山に囲まれた環境で、毎朝八幡さんの前を通って柏原中学校で学んでいた頃は、末は大臣が大将かと夢見つつ、無意識に人生五十年程度を予期していたと思う。大学を卒業して会社勤務を始めた頃も、定年の五十五歳まで勤められたら結構な事だとの思いがあつた。事実四十八歳の時に心筋梗塞を患い、高見先生のお力により奇跡的に生還した時、東京



女子医大付属病院の医師から「心筋梗塞をやった人は、発病の時に五〇パーセント、五年以内に八〇パーセントは死亡している」との説明を受け、我が人生と会社の定年とほぼ同じか、と覚悟した。

それが、今や六十七歳だ。長生きをしたものだ。更に日本は世界一の長寿国で、女性は八十二歳、男性は七十六歳が平均寿命とか。従つて、大切に生きると、残り十年程度の生命は固い。この十年を如何に生きるか、これが問題だ。

現在座右の目標として「一局・十操・百読・千字・万歩」を掲げている。毎日の生活目標である。

私にとって、歴史的に最も古い習慣は、「百読」である。一日百分以上堅い本を読む日課である。若い頃は、三百ページの本なら、一晩で斜め読みが出来たものが、年を経る毎に頭に入り難くなり、読むスピードが落ちてきた。老を感じる。しかし、スピードは落ちても、一日百分の読書が続けることにしている。読書の中心は、古事記・日本書紀・続日本書紀等日本史の古典、及び春秋左氏伝・史記等中国史の古典である。二千年の昔も今も変わらぬ人間の息吹きが楽しい。徒歩五分の距離に金沢文庫図書館があり、蔵本も数多く、読書三昧に耽けられ、環境も幸いである。

次に古いのが「万歩」である。心筋梗塞のリハビリティとしてジョギングが課せられた。万歩計を腰につけ、一日の歩

数を数え始めたのは十八年前になる。五十歳台の十年間は、早朝にジョギングが出来た。体力の衰え、肥満、関節の痛み等からジョギングを速歩に変えた。幸い海の公園、金沢八景の風光明媚な環境と良い空気に恵まれ、持病の喘息も治まった。雨の日や、風邪をひいた時は休んでいるが、月二十五日年間三百日は万歩を達成している。歩いた日は気分が爽快である。

子ども達が結婚し孫が生まれた。私達が子どもの頃は、夕食後とか色々な機会を捕らえて、祖父母から、両親から、兄弟から、色々な話が聞けた。それは我が家の歴史であり、先祖から兄弟にいたる生きざまであり、その中に誇りを感じ、時にはそれを手本にし、今日まで生きてきた大きな力の源泉になっている。今や核家族時代になり、兄弟も少なく、孫達へ話す機会も乏しい。そこで「自分史」を書いて孫達へ残すことを考えた。「孫達への手紙」の執筆である。一日原稿用紙に三枚は書くことを日課とした。これが「千字」である。継続は力なりで書き始めて約三年になるが、書きたいことの三分の一位は書けた。残り十年あれば、完成するだろう。

二年前に、横断歩道を急いで渡ろうとして、右足肉離れを起こし、松葉杖の世話になり、病院通いをした。足の肉離れのリハビリティに、首を引っ張る治療があった。医師の説明では、「体操をして首を回したり、跳躍したり、平素使って

## “十四の瞳” 同窓の旅

足立正美（青垣町）

いない筋肉を刺激する事が、肉離れやこむらがりえりを防止し、時には結石を除去したりする」とのこと、昔、海軍時代に毎朝毎昼毎夕海軍体操をして暮らした日を思い出し、一日一〇分間の体操を始めた。「十操」である。散歩の途中で、他人様の邪魔にならぬ所で一〇分間の体操を日課としている。継続していると、日毎に体が柔らかになり、体力の快復に気付く。休むと体力はガタンと落ちる。

「サラリーマンは引退後社会と隔絶される。これが一番つらい。その点、パソコンでパソコン通信をやると楽しいですよ」と、NECの展示会でパソコン通信を知り、PC—V ANとか他のものを少しやって見たが、余り芳しくなかった。ところが、『週刊囲碁』でパソコン通信による碁会所の存在を知り、それに入会した。わが家に座して、一日二十四時間、好きな時に、日本全国の囲碁仲間と囲碁を楽しめるのである。加えて、棋譜も取れ、総譜が印刷でき、自動手動で棋譜の検討もできる。入会当初は楽しくて、一日五局も打っていたが、経済面もあり、日課のバランスもあり、一日一局に限定した。「一局」は制限の日課なのである。

かくの如く、私の「一局・十操・百読・千字・万歩」の日課が確定した。毎日が「アッ」と言う間にドンドン跳んで行く。

柏原高等学校第六期、同期生で、東京及び近郊で連絡の取れるのが約二十名、春と秋の年二回、小料理店とかレストランで十名程が集い飲み、食べて駄歩ってが定番の同窓会が続いてもう二十数年、やっと柏友会と名がついたのが昨年七月、会員のはほとんどは昭和三十年前後の上京組、その頃、東京、大阪間は夜行列車で十二時間を要した。故郷を遠く離れたという実感と、早朝の東京駅ホームに降り立った時、一抹の寂漠感に襲われた遠い思い出、各自が青雲の志を胸にして上京、おおむねは、南こうせつの「神田川」に象徴されるような青春時代を過し、今四十年近くを経て一家を構え子育てを終え、いつの間にか孫まで……、そして間もなく還暦を迎えようという年齢となった。

高校時代を思い起せばまだ戦後の貧困は続き、ボロ自転車、四里の道を風雨を嫌わず三年間の通学、帰っては農作業の手伝い。あの辛苦に耐えた力、子供の頃から身に沁みについた謙譲の美德、今でも共通した性格として認められる。各氏の肩書き、経歴を紹介すれば、それぞれの分野で対応の名を

成し功をとげた人達と万人の認めるところである。イマイチ有名人とか金満家と成った人は居ない、これまで私がおうことができた有名人達との相違点は、悪わるになれない、ふてぶてしさ、図々きつさに欠ける、ヒラキナオリができないといった点である。懸命な努力を重ね、分相應の生き方を身に付け家庭を大切にす常識人の賢明さとして特筆すべきか、丹波から芸能人等が出てこないのも、そんな所に一因があるように思える。

昨年の七月、柏友会の命名者飯田光雄君が幹事で銚子方面へ貸切バスでの小旅行が実施され、発車と同時に冷えたビールが出てくる周到な企画に一行はすっかりリラックス、一日歩き、笑い、登ったり降りたり、地球の円さが眺望できる水平線を眼下にバーベキューを堪能し、これまでと一味違った会となった。その時、私が次回総会の幹事に指名され、以来、自分の喜びや楽しみのためだけに金や時間が使えない最後の世代という思いと、自身のために使える時間もアトそうは残っていないぞという思い、加えて時代が違うと言ってしまうばそれまでだが、丹波の山と川しか知らずに八十五歳の生命を終えた祖母のことが脳裡をよぎり、思い切つて旅に出よう!と呼び掛けた、と大袈裟にいつても小豆島中心の二泊三日の旅である。仕事の上で知り得た、日本の古き良き時代の心と人情、懐かしい田園風景、そこに立てばたちどころに蘇らせて



『二十四の瞳』の像の前で同窓生（右から2人めは旅館のおかみさん）

くれる島、それも桜が満開の時が最高の舞台装置となる。決行日は早々と四月六日―八日と決め準備に取りかかる。賛同者の知恵と便宜を得ながら最終的に男女のバランスを考慮し、関西から有田彰夫君の応援参加を得て男三、女四の「十四の瞳」が瀬戸大橋を渡る所から旅立った。

『二十四の瞳』の舞台となった栗林公園、岬の分校、翌日の丸亀城の桜、琴平さんの石段等々、スナップ写真からはほとんどタイムスリップしている同窓生がなんともほほ笑ましく可愛く写っている。皆どうしてこんなに若々しく元気なのか、昔の苦勞が鍛練となり今に活かしているのか、バイタリテイを内に秘める丹波人の特性か、見事に熟年達は白線の帽子とセーラー服姿の時代に戻っていきいきと動いていた。尾崎放哉という大正期の俳人の記念館落成式にも合せて組んだスケジュールだったが、名句、俳句の舞台上に上っ面しか触れることができなかったのが心残りとなったが、思い掛けずめぐり会えた四国の有名無名の神社仏閣に「おばあちゃん代りにお参りしてあげるで……」と手を合わせていた。

とにかく無事四十年ぶりのリフレッシュ旅行を終え、写真交換会を名目に総会パートⅡを二ヶ月後に開催、参加できなかったメンバーの出席も得、土産話やら冷かしやらに花が咲き、賑やかに会は運び、二次会カラオケの舞台に移っても続き、同期生の絆は又強められた。青春時代は既に遠のいてし

まったが、同窓会の良さは何の身構えもせず、自分の弱点もさらけ出してつき合え、すぐにあの頃に戻れる楽しさとする種のエール交換ができる良さを沁々と感じた。

## やまざる信州に住む

上村 邦子 (柏原町)

長野県人となって早や四か月が立ちました。縁もゆかりもなかったのですが、全くひよんな事で、南遙かに八が岳を望み、後ろに浅間山を背負う地に、山小屋を建てました。

取りあえず空き地に野菜を植えて、収穫を得て居ります。夫と二人暮らしなので知れていますし、グルメ指向でもないので、年金と健康を天秤に懸けながらやっています。車を走らせれば十分か十五分位で五、六カ所温泉もあります。まわりは、農家の多い土地柄で、季節野菜の栽培も機械化されていて、ビニールに覆われた一面の畑には、二度ばかり同じ野菜が大きくなっています。今は、ブロッコリー、キャベツ、白菜などが次々と出ています。農繁期の今は、農家の人は早朝からよく働かれます。

各地域ごとに、集荷場があり、箱詰めされて、その日か、

翌朝には碓氷峠を越えて、東京方面に出荷されます。

さて、むらの社交会へのデビューは道の草刈りと、公民館の掃除で果たすことができました。その時にいろんな情報などを仕入れるわけで、こちらから解け込まなくては向うから手をさしのべてくれる訳ではないので、これは努力がいりります。

ところで、信州の女性は昔からガンバリ屋だと言いますが、厳しい寒さの中で自然に培われたネバリがあるようです。この点では丹波人は、アキラメが早いようです。いや、そんなことはないとお叱りを受けるかも知れませんが。私は若い時に丹波を出てしまつて、あちこち動きまわしたので、"人生到る所青山あり"の気分で、それぞれの土地の良い所をみて、友を得て、趣味を通じて人生を楽しむ生き方が自然に身に付いてしまつて今日まできました。

毎日の新聞、テレビ等で老人問題の出ていない日がない時代に入り、この先不安は一杯ありますが根が楽天家なので、何とかなるのではと思つています。

六十になりまして、近頃良寛の生き方に興味を感じるようになり、ちなみに手元の歌抄の中に「月の光りも粗末にせず、我国の有難い古さを新しく活かし、海山の間に見捨てられた物を見出して利用し、簡素で、住みよく、着心地好く、又質素で美味しい食事をし、歌もうたい、俳句も詠み、絵も、書

も楽しんで、生活を豊かに云々」とあり、私の当面の目標はこれだなと思つて居ります。

終わりに、『山ざる』の諸兄諸姉に干武陵（ちんりやう）の勸酒を捧げます。

勸君金屈卮

満酌不須辞

花発多風雨

人生足別離

コノサカズキラ受ケテクレ

ドウゾナミナミツガシテオクレ

ハナニアラシノタトヘモアルゾ

「サヨナラ」ダケガ人生ダ（井伏鱒二訳）



## この頃思ふいごとども

### 矢尾 鐵太郎（柏原町）

昭和三十二年に柏原高校を卒業してから三十七年になります。私のずばらさから、それ以来すっかりご無沙汰している方々も多く、申訳なく思っております。今回『山ざる』に書いて下さいとのお話で、若干でも日ごろのご無沙汰の償いになるならば……と近況報告をさせて戴くことと致しました。

先日京都で、学生時代の寮の同期生の会合があり、昔住んだ吉田寮を訪ねました。私の息子達より若い学生達が、うさぐさそうに私達を見ていました。「三十年前にここに住んでいたんだよ」と言ってから、こころもち彼等の態度が変わったようでもありました……。

当時の私達は、今日の前にいる学生達と同じように、若く、うす汚なく、生意気で、寮を時々訪れる「おじさん」達を同じようにうさぐさそうに眺めていた筈です。建て替えられないでいる昔のままの木造の建物は、一瞬三十数年間の時間を忘れさせ、「俺の部屋はここだったんだ」と言うときには、思わず扉を開けてしまいそうになりました。一緒にいる仲間

の白くなった頭が目に入って短い夢はすぐ現実に戻りましたが、この三十数年間という時間が長いものなのか、あつという間ではないのかといった思いがしばらく私を離れませんでした。

マラソンでいえば、折り返し点を過ぎて大分たつたせいか、最近では人の一生の長さといったことを時々考えます。八十年とか百年とかいう人間の寿命は一体長いのか短いのか。こんなことを考えていると、そのうち宇宙の大きさなどということにつながってきます。百億光年のかなたにある星の存在を考えると、この宇宙のとてつもない大きさに、いかにも人間や地球が小さなものに思われ、百年という時間は限りなく短いものに見えてきます。

ところが、人間の体内に宿る微生物などを考えますと、恐らく彼等にとつては一人の人間の体はそれだけで立派な宇宙ではないのか、彼等にとつて百年という時間は人間にとつての百億年に匹敵するのではないかなどと思われ、百年は非常に長いようにも思われるのです。いや、こんなことを考えても、どこに行くわけでもないのですが、ほんやりしている時に、いつの間にか考えてしまっていることがあります。

今年の五月、会社の勤続表彰の休暇を利用して、二週間の英国一人旅を敢行しました。リュックを背負って、ジープ

をはいてのスタイルは、五十五歳にもなった男がと言われそれうでもありましたが、私はどうしてもその格好でなければならぬと決めていました。旅の性格をもととそのスタイルのものとしてイメージしていたからです。

これといった理由はないのですが、私は昔から英国が好きで、特に英国の田舎の静かな風景や、幾多の歴史が刻まれている中世の建物や、古いものをいつまでも大切にしている英国人、氣質などに強い憧れのようなものを感じていました。そして、いづれ一度は訪ねて見ようなどと漠然と考えてはいたのですが、昨年末に英国にいる知人から、「来ないか」という葉書を受取ったとたん、にわかにすべてが現実のものとなりました。

車で行って道を間違ったカンタベリーも、雨の城壁を歩いたヨークも、不思議な雰囲気をもつエジンバラのオールドタウンも、親切な老夫婦が経営するウィンダミアのBB（民宿のようなもの）も、今となつてはすべてなつかしく思い出されますが、最も印象に残っているものを一つと言われれば、ローマの遺跡で有名なパースの隣にあるチップナム駅からバスで行ったレイコック寺院です。いかにも英国らしい小さな農村にあるこの寺院は、過去の栄光の歴史や数々の文化遺産をかかえて、しかし英国の厳しい財政事情から公けの援助は殆どないようで、ナショナルトラストなどに頼つて細々と、

しかし必死にそれらの遺産を維持しようとしていました。このままではいけばやがて……という、亡びゆくものへの愛惜のような気持も混つて、見終つたあともしばらくそのまわりをぶらぶらしていました。

英国から帰つて、長年の懸案であつたものを一つ果たすことが出来たという一種の達成感のようなものを感じています。そして今後いろいろな面でこのような懸案を持つことができれば……と思つていきます。

趣味はと聞かれると、ためらいなくテニスと碁ですと答えます。テニスは四十歳を過ぎてから始めたのですが、全くの我流ですからさっぱり上達はしません。ボレーなどの格好を見ると一目で下手というのがわかるようで、しばしば実戦での戦績よりは低く評価されます。でも週末、シャツが絞れるほど汗をかき、シャワーのあとで飲むビールのうまさとは格別です。また、一週間の会社や何やかやのモヤモヤがこれで完全に消えてしまい、あとは体の疲れを眠りによつて癒すだけという状態になるのもテニスの効用と思つていきます。今や私にとつては、一週間のリズムを作るための大切なセラモニーになっています。

碁の方は大学の四年の時に、市島の親戚へ遊びに行つて手ほどきを受けたのが始まりです。会社へ入つてからも、時期

により熱中度はさまざまですが、とにかく碁から全く離れたことはありません。現在も週に一回は碁を打ちます。会社を終えたあと、友人とさそい合せて碁を打って、ビールを飲みながらの反省会は、自慢し合い、けなし合うような他愛のないものですが、かけがいのない楽しみになっています。日頃は無宗教で無神論の私ですが、碁についてだけは少し違うところがあります。碁の難しい場面になると、プロならどう打つだろうと思ったりするのですが、そのうちまた、プロだつて全てがわかっているわけではないというようなところから、神様だったら……になるのです。あるいはまた、酔った友人の誰かが、チェスや将棋や麻雀は人間が作ったものだが、碁は神様が作ったゲームだなどと言うと、そうかもしれんとあっさり飲み込んでしまつたりして、自分ながら驚いています。

何年か前から、氷上の出身者で年に一〜二回テニスをやっています。初めはどこかに集まって二〜三時間という形でしたが、次第に土曜から日曜にかけて一泊二日のテニス旅行に変わり、そのうちに、土曜の夜は碁をやるとういう人が増えてきて、今ではすっかり、テニスと碁の会として定着してきました。いつかの夏、軽井沢で夜中から激しく雨が降り、今日は一日碁を打つていようと夢中になっていたら、いつの間にかすっかり晴れていて、あわててコートへ繰り出したこともありました。

### 郷友のみなさまへ

「人間今が一番若いんだよ。明日より今日の方が若いんだから。いつだってその人にとって今が一番若いんだよ」。これは今ベストセラーにも入っている永六輔の『大往生』の中に出てくる言葉です。ああ、そうなんだなとしんみりと頷いています。一番若い今日何をしようか、何ができるか、そんなことを考えているうちに今日も暮れようとしています。

☆関東氷上郷友会の運営および本誌の発行は、すべて会員有志のボランティアによつて行われていますが、それぞれ娑婆に仕事を持つ身、何かと不行届きの点は、どうかご寛容のほどをお願いいたします。

☆会の通信費や本誌の制作実費等に要する資金は、もっぱら会員篤志家のご寄付や協賛広告料、年会費で賄われていますので、何とぞご協力を願います。

☆年会費は郷友会々則に、二十余年前から「千円」と規定されていますが、強制するものではなく、これもひとえに郷友のご理解を期待するところです。

☆協賛広告料は本誌のもっとも大きな資金源です。色刷り裏表紙二〇万円、表紙裏一〇万円、文中の一頁三万円、½頁一万五千元、名刺広告五千元です。我と思われる方、どうかご協力お願いいたします。



## 関西国際空港物語

梶原 清（篠山町）



去る九月四日、関西国際空港が開港しました。

皇太子殿下、同妃殿下をお迎えて開港記念式典が盛大に行われ、エールフランスが誇る超音速旅客機コンコルドも開港を

祝って飛来しました。開港記念切手、記念貨幣なども発行され、アジアの新拠点をめざす関西国際空港の誕生に地元の人々は熱い思いでお祭り一色となりました。

「本当によかった」という思いと同時に、「私が飛行場部長当時はあんなに反対一色だったのに、変われば変わるもんだな」と私はしみじみ思いました。

私は昭和四十九年十月から約三年、運輸省の航空局飛行場部長をつとめました。ところが、当時は空港建設反対運動、航空機騒音問題の最も激しかった時期でした。空港公団の用地買収を妨害するため、五十五名の国会議員が「一坪運動」を展開し

た成田空港では、妨害鉄塔の撤去をめぐる凄絶な攻防で、警察官五名が死亡、三、八〇〇名が負傷しました。

大阪国際空港（伊丹空港）では、騒音補償をせよ、空港をどかせ、エアバス（ジャンボ機）、トライスター機などの低騒音大型機の乗り入れ絶対反対、の大合唱。

関西新空港問題については、大阪府議会、神戸市議会をはじめ、大阪湾沿いの十五市五町の議会がこぞって建設反対を決議。「大阪湾軍港化阻止共闘会議」「三里塚闘争に連帯する会」など、新空港の建設に反対する住民組織が各地で結成されていきました。

関西弁で、腰の低い私に与えられた任務は、一つは、土井たか子先生が先頭に立って反対されている伊丹空港へのエアバス乗り入れを一日も早く実現させること。もう一つが、泉州沖の候補地に観測塔（工事費約五億円）を一日も早く建設することでした。

私は、成田空港の二の舞だけは絶対に避けたいと考え、一年余りのあいだ、兵庫、大阪、和歌山三府県の各地に出かけ、空港計画を説明し、観測塔設置に対する理解と協力を訴えて回りました。そのほとんどが「空港反対」「飛行場部長帰れ」のシュプレヒコールと怒号で、時には夜を徹して延々十一時間半も立たされてきました。

幸い大阪府の西村壯一企画室長（当時）らの大変なお力添えをいただいで、昭和五十一年九月二十二日、黒田了一大阪府知事（革新系）から観測塔設置の了承をいただき、今日を迎えました。

「これだけいじめ抜かれて生まれれば、丈夫に育つだろう」。週刊・東洋経済（平五・十一・六）が、ある空港関係者が自嘲気味に語った言葉を紹介していますが、どうしてどうして、その外面の華やかさに反して、関西国際空港の前途は本当に大変です。

空港建設費は一兆五千億円で、成田の約五倍。借入金に対する毎年の支払利子は、成田の約百四十億円に対して五百八十億円。横風用滑走路を早く建設しなければならぬのに、空港の全体構想に対する大蔵当局の態度は極めて厳しく、また、神戸空港の建設を進めようとしている兵庫県サイドとの調整をどうするか等々、極めて困難な多くの課題をかかえています。

### ■青天の霹靂「神戸沖反対表明」

話がさかのぼりますが、私が航空局飛行場課長（昭和三十三年六月～四十二年七月）当時、「関西新空港調査費」が昭和四十三年度の運輸省予算に初めて計上されました。

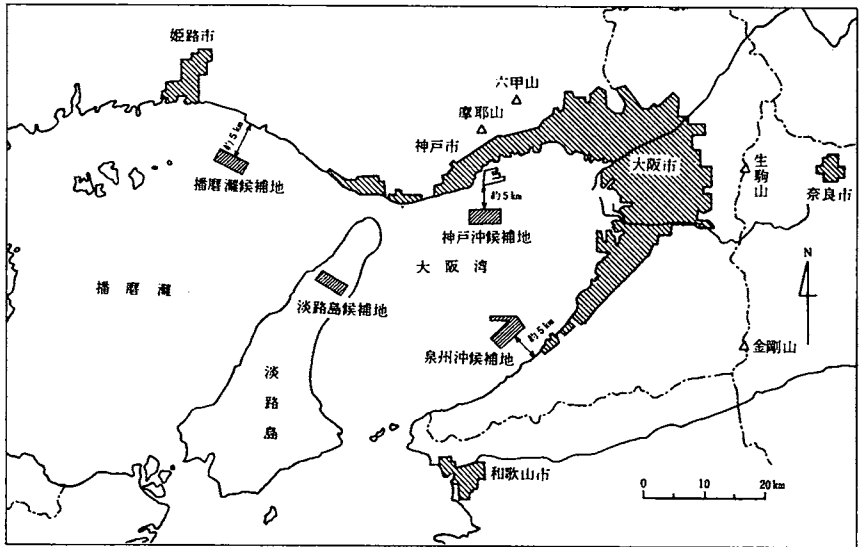
調査を三年実施したあと、昭和四十六年十月、運輸大臣から航空審議会に「関西国際空港の規模と位置」が諮問されました。同審議会は、候補地を泉州沖、神戸沖、播磨灘にしほり、現地視察、実機飛行による騒音調査、聴聞会、部会審議（三、四十回。大阪府、兵庫県、大阪・神戸両市がオブザーバー）を精力的に行い、昭和四十八年五月にはいよいよ候補地の優劣の検討に入ることになっていました。

こうした矢先のことでした。それまでは、「神戸市民の健康と生活に支障を来たさなければ反対する理由はない」との態度だった宮崎辰雄・神戸市長が、昭和四十八年三月六日の市議会本会議で、「運輸省の現段階のデータでは公害のない証明は不十分で、公害はあると判断。市会の決議を尊重して反対せざるを得ない」と神戸沖反対の態度を表明されました。さらに、「身体を張ってでも市民の先頭に立って反対するか」との質問に対し、「そのとおりです」と答弁されました。

この宮崎市長の突然の神戸沖反対表明は、坂井時忠兵庫県知事（当時）、神戸商工会議所、神戸市事務当局等にとっても青天の霹靂だったと思いますが、運輸省にとっても大変なショックでした。

三候補地のうち、神戸沖が大阪、神戸という都市圏からの距離が近く、神戸市の事務当局、神戸商工会議所も神戸沖誘致に大変熱心でした。そのため運輸省は早くから神戸沖案を

#### 4 候補地の位置



重視し、各種の調査も神戸沖にウェイトをおき、いわば神戸市と手を組んでやってきていました。その相手の市長から「身体を張ってでも市民の先頭に立って反対する」といわれた以上、地元の理解と協力を得て空港づくりをする」との基本姿勢であるだけに、神戸沖は断念せざるを得なくなったわけです。

そして航空審議会は、沈黙の約九か月後、七つの比較項目  
 ①利用の便しさ ②管制・運航 ③環境条件 ④建設  
 既存権益との調整 ⑥地域計画との整合 ⑦開発効果) のうちの開発効果を重視した「泉州沖最適」の答申をしました。

それでは、なぜ宮崎市長が反対表明をされたのか。当時の新聞によると、「市長は同年十一月に選挙を控えており、自民党の砂田重民衆議院議員と一騎打ちになる。前回の選挙に自民、民社両党と社会党市議団の推薦という変則な形で出馬した同市長としては、革新色の強まる大勢に対応する必要がある、空港反対運動の背後にある社会党の勢力を意識せざるを得なくなつて、この日の態度表明になった」(昭四八・三七読売)。このとおりだとすれば、「神戸市長は自分の選挙と新空港とを引き換えにした」(前出・東洋経済)といわれても仕方がないように思います。

## ■騒音問題かかえる伊丹空港のゆくえ

それとはかく、泉州沖最適の答申が出た直後に飛行場部長に就任した私は、成田の轍を踏まないために、運輸省の先輩でもある木村陸男大臣に強くお願いして三府県知事を歴訪してもらいました。何といっても『始めが大事』『始め半分』だからです。

そのあと、前述のとおり、一年余りのあいだ地元説明会で各地を駆け回りました。これを受けて大阪府当局が大変苦労して、空港反対決議をしている泉州八市五町を説得し、観測塔設置に「同意」「やむを得ない」の意思表示を取り付けられました。本年九月七日付の大阪新聞が「地元説明会で梶原さんは『地獄のような毎日』。大阪府担当者も地元各市を回った。『北〓伊丹空港〓の公害を南にもつてくるのか。反対派からは『運輸省の手先』と言われたが、逆に運輸省が俺の手先だと言いつ返しませんでした。地元意識改革には苦労した』（西村さん）」と伝えています。西村企画室長と私は文字どおり二人三脚でした。

「五十二年九月、黒田知事から観測塔にOKが出された。今でこそ、開港へのワンステップだが、調査はひとつの大きな展開だった」（前出大阪新聞）。この観測塔が五十二年秋完成。その後三年各種の調査、航空審議会の一回目の審議をやっ

て、運輸省は五十六年五月、泉州沖の「空港計画案」「環境影響評価案」「地域整備の考え方」（いわゆる三点セット）を大阪、兵庫、和歌山の三府県に提示して協力を求めました。これが、新空港の建設の可否を決める『地元協議』といわれたもので、政府の計画決定の前に地元の意向を問う、全く前例のない手法でした。

実は協議を受けた三府県側も大変で、勿論いろんなことがありましたが、一番最初に大阪府がOK。次いで、『扇風機の裏側論』（和歌山は泉州沖に近いが、いわば扇風機の裏側で、騒音の被害ばかりで涼しさが無い）の和歌山がOK。これにこじれたのが兵庫県でした。

「泉州沖最適」の答申が出てから数年がたち、泉州沖案の手順も大分進んだころ、兵庫県、神戸サイドで神戸沖案が台頭してきました。

その先陣を切ったのが「石井私案」。運輸省が懸命に三点セットの準備をしていた五十五年秋、兵庫県出身で、第一次答申時の運輸政務次官であった石井一先生が、神戸ポートアイランド沖合い三キロ（運輸省の当初の神戸沖案は沖合い五キロ）の「阪神沖案」を提唱されました。さらに翌五十六年二月に「第二次石井私案」を発表し、泉州沖よりも神戸沖が『早くて、安くて、便利』と訴えられました。

次いで神戸市。ポートアイランド沖合い四キロの「神戸市案」をまとめ、宮崎市長自ら小坂徳三郎運輸大臣に検討を要請されました。しかし、小坂大臣は「いまは地元三府県が一致して泉州沖空港の推進に協力してほしい。神戸市案を検討するとしても、泉州沖計画が滑り出してからだ」と、資料の受取りを拒否されました。

一番肝心な兵庫県 の立場。坂井時忠兵庫県知事(当時)は、人口百五十万の都市郡に囲まれ、大変な航空機騒音問題をかかえている伊丹空港を廃止し、立派な神戸沖空港を建設したいというのが基本的なお考え。五十七年はじめごろから、泉州沖案はまだ本格的なものになつたわけではない。神戸にとつて便利な空港を一日も早くつくるべきだ」との態度を表明しておられただけに、三点セットに対する対応が大変難しく、運輸省と兵庫県とのあいだの文書交換を何度もやり、数十回に及ぶ精力的な事務折衝を重ねた結果、泉州沖の第一期工事はOK。第二期以降は改めて関連府県と十分に協議すること で決着しました。

前出・東洋経済によると、「神戸市の罪は重い。最初の神戸沖をけつたのは公害問題が騒がれていた時期でもあり理解できなくもないが、再度巻き返しに出たのは許せない。あれ

で関西国際空港の開港は二年遅れた」と、いまだに憤慨する関係者がいる」。

「自分の眼の黒いうちは神戸空港など絶対認めない」という運輸省OBや、大阪の経済界首脳が数多くいることも事実だ。彼らが一線から退いたことも、神戸空港実現へ向けて一歩踏み出せた原因である」。

この、神戸空港実現へ向けて一歩踏み出せた」というのは、第六次空港整備五カ年計画(平成三〜七年度)のなかに「神戸空港の建設」という文字を入れ、かつ運輸省が若干の調査費を予算要求したことを指しています。しかし、これに対し、大蔵省のある幹部が、強い口調で、「運輸省は精神が分裂しているんじゃないか」。

ほかならぬ私も、当時は自民党兵庫県支部連合会所属の在京代議士会のメンバー。自民党の関西新空港建設促進議員連盟の事務局長として、貝原俊民兵庫県知事の意を体し、神戸空港を第六次空港整備五カ年計画に入れることに奔走した一人です。大蔵当局からは精神分裂症といわれるところですが、大切なことは、関西国際空港の全体計画(二期、三期計画)と神戸空港問題とが極めて関連が大きいということを指摘しておかなければなりません。

宮崎市長は後年、「神戸沖反対表明は一世一代の大失政。一大不覚」とおっしゃったそうですが、こうして後々まで問

題を残すことになってしまいました。

ともあれ、文字どおり山を越え谷を越えて、関西国際空港株式会社法が昭和五十九年六月三十日に公布施行。同年十月一日に関西国際空港株式会社が発足しました。

もちろん、この会社は政府出費のある特殊法人ですが、この特殊法人を一つ新設するために、私が現在社長をつとめている日本自動車ターミナル株式会社が資本金百七十億九百万円、うち政府出資金が五



十七億七千九百万円の特殊法人でありましたが、その政府出資金全額を引き上げて普通法人にしたこと。もう一つは、同様に特殊法人である大阪国際空港周辺整備機構と福岡空港周辺整備機構を一本にする措置がとられました。

これはやむを得ないことですが、私が最も残念

なのは、関西国際空港の滑走路が三、五〇〇メートルになったことです。運輸省が四、〇〇〇メートルを要求したのに対し、大蔵当局が三、三〇〇メートルにせよと主張し、結局三、五〇〇メートルに落ち着いたようですが、東南アジアの発展途上国がこぞって四、〇〇〇メートルの立派な空港づくりを競ってやっているのに誠に残念というほかありません。また、沖合い五キロの水深一八メートル、へどろ層三〇メートルの所につくる海上空港であるのに、三、五〇〇メートルで出発したことは如何にも勿体ないことだと思っています。

それからもう一つ。空港建設に七年半かかりましたが、それが丁度バブル景気で、建設費標準指数が高い時期にぶつかってしまった。完成して、いざ供用しようとなると、平成不況、深刻な航空不況にぶつかって因果なことになったのではないか。

あのようなことがなかったら、このようなことがなかったら、もっと早く、もっと安く出来上がったであろうと思いますが、過ぎたことは仕方ありません。大切なことは、大きい、広い視野に立つて、せっかく誕生した関西国際空港を大きく育てて行くことである。子孫のためにも、この日本列島が沈没することのないように、みんなが知恵を出し合い、力を合わせようではないか、と思っています。

## 展覧会

### ●花に生きる―常岡文亀展―

今秋、柏原町 文化会館で

自ら花をつくり、生涯、花のいのちにわが想いを託して描きつづけた日本画家・故常岡文亀画伯の回顧展が、ふるさと丹波の人々の熱意によって、今秋文化の日を中心に開催される。

主催―丹波文化団体協議会

(谷口務会長)

後援―兵庫県立丹波文化会館

柏原町 (山中庸吉館長)

協賛―兵庫県文化協会

(貝原俊民会長)

会期―平成六年十一月二日～四日

会場―兵庫県立丹波文化会館

文亀画伯は明治三十一年柏原町上小倉に生まれ、柏原町立崇廣尋常小学校、兵庫県立柏原中学校を卒業後上京、柏中教諭山根泉介先生の紹介で岡田秋嶺、



戸部隆吉、小泉勝尔先生に師事、美術学校入学準備の指導を受ける。

大正六年、東京美術学校 (現芸大)

日本画科に入学。大正十年、第三回帝選に「百日紅」を出品、初入選。大正十一年東京美術学校卒業、結城素明先生に師事。

昭和三年、東京美術学校助教、後教授となり、四年、第十回帝選に「鶏頭花」を出品、特選となる。その後、パリ、ベルリン、トレド、ニューヨーク、シカゴ、バンコック各日本美術展に花卉画を出品し、昭和六年、第十四回帝展で「棕櫚」特選、昭和九年、第

十五回帝選に「カンナ」無監査出品、政府買上げとなる。

昭和十年、奥村土牛、大田聴雨氏らの九阜会に参加、十四年、文展審査員、十六年、大日美術院展招待作家、大日美術院同人となり、各展に招待出品。

昭和二十年三月、郷里柏原町上小倉に疎開。日展に出品を続け、二十八年に上京、日本橋高島屋で個展を開く。



高島屋個展作品の「菊」(昭和28年)

昭和五十四年十一月二十九日、心不全のため埼玉県飯能市で死去、八十一歳。

昭和五十七年四月、東京セントラル絵画館にて常岡文亀「写生」遺作展、

幹彦「白の風景」展を同時開催した。

かつて「山ざる」誌の表紙画を十数号にわたって寄稿、会員にもなじみが深い。(新聞コピーは、昭和二十八年高島屋個展についての美術新聞評)

## 怖るべき精華

### 常岡文亀近作展

文亀の近作展は東京のフアンを驚愕させ、美術商は驚きの目を見張った。文亀が一時の停滞を脱皮して、新しい境地を築いた精華はこの展覧会の作品でハッキリと感じられる。文亀の近作は豊潤な香気にあふれるみずみずしい色彩によつてたやすく人をひきつける。その画風は宗達風の装飾的な日本画の伝統を土台として、近代西欧美術へも通ずる新しさがあり、ややわかり易い点も見えるが、感覚的密度のある大胆でユニークな作風だ。この展覧会は花

非凡な才能が窺われる。「茄子」は紫紺の茄子や黄色い茱やバツクの朱などの色が画面で交流して細爛たる効果をあけ「あぢきい」は大きな花が重く垂れ下り、厚手の葉の描写などと共に肉感的で重厚な美しさがあり、「アマリス」は土破や空間の描写など装飾的な新しい試みを示す。そのほか花瓶をぶぐるように的確に描写した花の画や、「ぎほうし」なども作者の美的感動が画面に発刺と再現されて、明快なドビッシューの音楽でも聞いているように観者の心を文亀の芸術境は陶酔せしめる。ただし近來出色の画展であった。(八月五日〜九日 日本橋高島屋)

## リサイタル

### ●イタリアオペラを披露

足立さつきさん、ふるさと公演

二年間のイタリア・ミラノ留学を終え昨秋帰国したオペラ歌手・足立さつきさんは、その成果をもとに各地でリサイタル活動を行っています。この春には出身地の春日町黒井の町立文化ホールで「ソプラノリサイタルⅣ」を開きました。

さつきさんのふるさと公演は四回目、今回は、イタリアからの素敵なおみやげと銘打った二年ぶりのステージで約六百人を前に留学の成果をたっぷりと披露し、盛んな拍手を浴びました。



(丹波新聞より)



## 同好会

### ●水上ゴルフ同好会

〈成績表〉

第五十四回 桜ヶ丘カントリークラブ

平成五年十二月九日、二十三名参加

優勝||塚口智、二位||塚口裕子 三

位||柏原よし子、BB||渡辺貴美子

第五十五回 府中カントリークラブ

平成六年三月二十四日、十三名参加

優勝||川畑明光、二位||塚口智 三

位||柏原よし子、BB||大石佐代子

第五十六回 大相模カントリークラブ

平成六年六月六日、十二名参加

優勝||柏原よし子、二位||安波雅朗

三位||大槻高司、BB||渡辺隆男

第五十七回 多摩カントリークラブ

平成六年九月十九日、十二名参加

優勝||大石佐代子、二位||渡辺圭造

三位||川畑明光、BB||細見次郎

水上会ゴルフコンペは近年、女性の

参加がふえて、かつ入賞者もめざましい。黄色い声が交じると楽しさも倍加

する。ボギーと言うとお姐さまからパーとささやかれたりして、男性軍カタナシでもある。ヘタに教えたりしようものなら、あとで恥かきますぞ。ナメたらアカンでノ。

不況のせいか最近のコースはとりやすくなった。こんな時節にこそアクセクしないので、日頃のストレスをブツとばしたいもの。次回は十二月初旬、多数のご参加を。詳細は足立謙悟までご連絡ください。 ☎〇四五―三二―二九一。

### 柏陵同窓会

#### ●東京支部総会

平成六年度柏陵同窓会東京支部総会は、七月二日九段会館にて開催された。

本部からは植田憲雄会長、池畑豪士郎、永井壮一郎両副会長が出席、支部員は上山頭支部長、谷達雄副支部長以下六十三名が参集した。

今回は二百名ほどの新規支部員を加えて総会通知を出したこともあって、

常連に交じって新顔も数々見えた。年々会への参加者が減る傾向だが、この人達の口コミを通じて、新たな参加者の増えることを期待したい。

話題は募金難に苦しむ同窓会館建設に集まったが、募金期間を一年間延期して、目標達成をめざすとのこと。一大事業成就のために、さらなるご協力をお願いしたい。

#### 〈計報〉

九月三十日まで事務局に届いた計報は左記の通り。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

足立 治殿	平成六年五月十八日
有田久代殿	平成六年
岡田一雄殿	平成四年十二月
鴻谷喜代治殿	平成四年十二月一日
田中芳子殿	平成五年一月十九日
谷垣 博殿	平成五年七月十七日
豊田 薫殿	平成四年七月二十日
能勢次郎殿	
羽賀澄代殿	平成五年



足立 順治さん

湘南地域を対象に家庭不用品の再利用  
リサイクル運動市民の会を主催していま  
す。公民館に係わる郷土史クラブ、遊行  
塾の会長や、当地の高齢者老人クラブの  
会長もして、毎日多忙でいます。二月で  
満九十二歳ですが、まだまだ元気。毎日  
オートバイで東奔西走です。

(5・10・21)

足立美都子さん

『山ざる』の発行を十一月にしたのは名  
案でしたね。『山ざる』を読んで郷友会  
の案内を見れば、つい出席したくなるの

ではないでしょうか。

いつもながら立派な表紙、口絵写真、  
随想、エッセイ等楽しく拝見いたしまし  
た。「丹波の動き」もなかなか……。『山  
ざる』はますます充実していくようです  
ね。

(5・11・9)

飯野 宏さん

七年間東京勤務しましたが、七月に神  
戸に移りました。郷友諸兄姉のますます  
のご発展をお祈り申し上げます。

〒651-11 神戸市北区泉台三二二六

二〇、☎〇七八一五九三二七二六三

(5・11・8)



石倉 良介さん

今夏三十七年ぶりに柏原崇広小学校の  
同窓会があり、稲畑、足立春雄先生のお  
元気な姿と共に、多数の出席者があり盛  
況でした。当港南区の近くに、二人の同  
級生も住んでおり交友を深めたいと思っ  
ています。

(5・11・15)

大江 範子さん

健康しかとり得のなかった私ですが、  
平成二年十一月心筋コウソク、翌三年心  
不全で半年入院、十月二十五日狭心症に  
てまたまた現在入院中です。このたびは  
経過良好で、主人が『山ざる』を病室に  
持参してくれました。いつもなつかしく  
拝見しております。丹波というところ、  
京都にもある、篠山にもあると東京の友  
人にいわれ、困ることあり、苦笑してお  
ります。

(5・11・15)

大垣 忠男さん

『山ざる』いつも楽しみにしています。  
中高年の余暇の利用法、健康法など聞か  
せて欲しいです。また同郷の人々と趣味

の環をひろげるのも面白いのではないか。

(5・11・8)

可部美智子さん

先日『ふるさと兵庫』の冊子の座談会があり丹波のこと、ふれさせていただきました。

先祖代々阪神間の魚崎の産なので、おくに”のなかった私も、伯母「中井書店」に小さい時から疎開が終わるまで密なる関係で、第二の故郷”ともいえる柏原に誇りを持っています。

(5・11・5)

木村つた江さん

私がこの会に初めて出席いたしましたのは、夢多き娘(二〇歳)の頃でした。それから今日まで半世紀余りが、あつという間に過ぎ去ったようにも、また、長かったようにも感じられます。その間、敗戦後の混乱時代や子育てを退いては毎年この会に出席し、自分なりに心の支えとなつたと感謝しております。

(5・11・13)

菊池 洋子さん

武蔵野音大で教えはじめてもう二十七年目になります。何かと忙しく過(こ)しておりませんが、外国や国内で活躍できる生徒が育つて来てうれしいことです。

(5・11・6)

岸部 正巳さん

昨年から今年にかけて、お寺の世話役をやり、丹波にも年数回帰りました。田舎の人達とも昔を思い出しながら、いろいろのつきあいができ、春日ライオンズクラブの人達と海外旅行等も行っています。二年後には都庁を退職し、丹波に帰れることを楽しみにしています。丹波の将来をしっかりと見ていきたいと思っています。

(5・11・5)

小林 隆代さん

関東に住んでからなので、十年くらいは会誌を送っていたいております。自分自身も年を経て来ているためか、最初から読んでいますが、楽しく読めるようになりました。

(5・11・24)

桂 照子さん

『山ざる』楽しく読ませていただき、会員の方々の御活躍の様子、また丹波の近況も知ることができ、うれしく思いました。

(5・11・10)

木下 清史さん

忙しい日々の中、丹波の年月にタイム・スリップすると、二、三日ポワーンとして友達に逢いたくなるのです。もう故郷で暮らした以上の年が経っていますが、十八年間は私にとって半世紀以上の長さでしょうか。

(5・11・16)

下中 昭男さん

久安氏の一文に接し感激しました。私の生まれた昭和二年に海軍経理学校に入校された、私の唯一の先輩なのです。

(私も海軍経理学校に入りました。久安氏が十九期、私が三十六期です。柏原中学校は久安氏が二十六回、私が四十四回)お会いしたことはございませんが、お名前だけはしっかりと胸に納めておりました。

(5・11・9)

莊 正衛さん

人生とは一期一会、邂逅。わけても故郷の人との出会いがその人の生涯に、いかに豊かな実りと幸福をもたらすものであろうか。

常岡画伯の幽玄で幻想的な『山ざる』誌の表紙は、郷土を想う一服の清涼剤にて望郷の念忍び難きものがございます。ひとつの組織体が会報を編集することはできて、それは言うべくして非常にむずかしいものであり、またできてもおぼろげなりのものが多い中で、かくも心こもれる立派な製作に対し、心からなる感謝を捧げるものであります。

(5・11・5)

谷口 明郎さん

『山ざる』を拝見しますと、余命の少なさに反比例して世間が広くなります。殊に今回は上山さん関連の記事。また、井上さん(母堂秀子さんと亡父はいとこ)などは親戚筋。

さらに西畑さんの記事に出ている黒井

の城主赤井直正は母方の祖先ということ

になっており、丹波を知らぬ小さい孫たちへのひとつの情報提供としてもありがたい存在です。

同級生吉見文憲君のご冥福を祈っています。(六月柏原で会いました)

(5・11・5)

能勢 徹さん

『山ざる』で吉見柏陵同窓会々長が死去されたことを知り驚きました。私が高校生るとき教頭でした。東大出ということ、私達も一目おいていました。めりはりのある話しかたは、いまでも私の脳裏に残っております。ご冥福を祈っています。

(5・11・8)

畑 延雄さん

三十四年間勤務したN.T.T.を退職し、第二の仕事として千葉地方・簡易裁判所の民事調停委員の仕事をやっています。子供も二人社会人になりましたが、丹波とのつながりは、私一代で終わりそうです。

(5・11・2)

東田 実さん

毎年なつかしい会誌『山ざる』をお送りいただきありがとうございます。厚くお礼申し上げます。この後ともくれぐれもよろしくお願い致します。

(5・11・8)

藤原 知徳さん

『山ざる』大変懐かしく拝見しました。いまさらながら丹波は山奥だったなあ……と思い、子供の頃に思いを戻しています。いまは町村合併で新町名になっていますが、旧村名とか字名まで入れてもらえば、もっと懐かしさが沸いてきます。なお私は東北地方へも転勤生活をしましたから、岩手県のことから中尊寺(『金色堂物語』の著あり)のことなども懐かしく感じました。昨年は兵隊検査のとき以来はじめて、葛野小学校の同窓会(篠山で開催)に出席しました。坂上幸一君が欠席でちょっと残念でした。でも村上巧君が幹事でした。暇を作って遊びにお出かけください。

(6・2・14)

堀井 隆川さん

かけがえのない地球の環境問題が二十世紀に向けて、大きな比重を占めて来ると耳目を驚かしています。人間も自然の一部であり、驕りたかぶる言動を謙虚にして、良いものを子供達に受け継がせる努力をしましょう。「物で栄えて心で亡ぶ」ことのないよう祈るばかりです。

(5・11・4)

前川 和弥さん

先日はじめてお送りいただいた『山ざる』を拝見し、同郷の多くの方々が関東一円でご活躍なされているとともに、故郷氷上に熱い思いを抱いておられることを感じ、たいへんうれしく感激いたしました。今回はじめての会合のご案内で、多少迷いもありましたが、これも何かの縁と思い、出席させていただこうと意を決しました。 (5・11・9)

前田 和秀さん

現在保健所における地域活動を続けさせていただいております。特に重点項目

として、正しいエイズに関する考え方の普及や地域保健医療体制整備などで、土曜日・日曜日にも出勤することもあります。 (5・11・2)

三宅 良夫さん

約六年間四日市に単身赴任しておりましたが、今春小田原市に本拠を置く販売会社に異動となり、横浜市の自宅から通勤しております。 (6・7・12)

森下千壽子さん

情報を豊かに載せ、よくできています『山ざる』誌。編集、ほんとうにご苦労さま。謝謝。表紙絵もなんて立派なんでしょう。口絵写真も人の気をひきつけずにはいません。作品はこのようにも用いられて、人を喜ばせるのですね。 (5・11・15)

余田 士郎さん

編集後記に書かれていた通り、仲人をしてくださった有田喜一さん、顔をあわすたびに声を掛けてくださった西川政一さん、そしてついに須原清さんまでも亡

くなってしまうって、さびしい限りです。それだけ自分が年取ったことになるのでしようが、親戚の者もあまり会に出て来ないので気が滅入るばかりです。 (5・11・2)

若栗すぎ子さん (旧姓近藤・春日町)

ごていねいな懇親会のお誘いを頂戴して有難うございました。失礼ですが欠席させて頂きます。

振り返りますればはるけくも生き延びたものと感慨が湧いてまいります。きびしかった戦中戦後を通りすぎ世の中が落ちてまいりますと、すでに六十歳の坂を越しております。そして海外へ眼がむき先づ小手始めに香港、マカオを旅してまいりました。そうしましたら今度はブラジルに永住している兄に会いたくなくなり、娘の夏休みを利用してアメリカ西部からリオネデジャネイロ、ブラリアと飛び立ちました。途中いろいろありましたが、どこの空港でも日本人が乗って来て、そのたくましさに驚きました。赤ちゃ

んをおぶった女の人達までも。

数日滞在して帰途同郷の小学校同級生  
でした足立睦さんをメキシコに訪ねまし  
た。シテイやグアダハラと美しい景色  
や史跡を訪ね、オパールの原石等を買  
楽しみましたが、今はもう兄も足立さん  
もこの世にはいません。一、二年たつた  
ら今度はヨーロッパへ行ってみたくなり、  
ロンドン、パリ、ベルサイユ、そしてロー  
マ、ナポリ、ポンペイと訪れました。さ  
らに少したつとオーストラリアとニュ  
ージーランドへと行ってまいりました。そ  
ろそろ体力も落ちてまいりましたので、  
今度は近場の台湾へ孫の中学進学に合  
せて家族で行きました。ツアーで私が最  
年長者、孫が最年少者でした。海外旅行  
のしめくりと七十七歳でグアムとサイ  
パンへ行きました。美しいサイパンの海  
に山に激戦の跡を訪ね、胸つまる思い  
で拝んでまいりました。

今はもう近所の老人会で時たま、社寺  
温泉めぐりを楽しんでおります。でも月

## 原稿募集

本誌次号は関東氷上郷友会百周年の記念  
号です。どんな内容のものでも結構です。  
ふるって原稿をお寄せください。なお編集  
上、以下のように分類し掲載しております。

- ①ふるさと随想▶ふるさとに関するさまざ  
まな思い出や感想など
- ②近況・エッセイ▶旅行や趣味/世相雑感  
/私の近況など
- ③インフォメーション▶展覧会/同好会/  
催し/同窓会など
- ④こんなテーマの原稿も募集しています。

- ▶ふるさとに残る民話や伝説、小話など
- ▶〈わが立出の時〉ふるさとを離れる時  
の動機・決断・諸事情

■ワープロで打たれた方はプリントと一緒に  
複写のフロッピーをお送りください。

締 切 日：平成7年8月20日

原稿枚数：400字詰め原稿用紙4枚程度

送 付 先：〒102 東京都千代田区神田小川町

1-11 DMSビル内

関東氷上郷友会事務局

に八日位は古典文学の講座に参加致し、  
かたいにぶい頭に新風を吹きこんでいま  
す。戦後はよく経済講演会に出かけまし  
た。お陰で松下幸之助さん、本田宗一郎  
さん、偉大な人のお話を直に聞くこと  
も出来ました。尊い思い出の一頁です。  
今もひまさえあれば短波放送で経済の

流れ、株式の行くえを聞いております。  
まわりに出来るだけ迷惑を欠けないで一  
人で一日一日を大事に過ごしております。  
皆様のご健康とご発展を祈ります。

〒108 杉並区浜田山二一五―三〇

☎〇三―三三〇二―〇八一三

(5・11・14)

# 丹波の動き

( '93・8・7 ) — 丹波新聞の見出しから —

■ 93年 8月

5日○「日本一の石工」丹波佐吉最後の

作 不動明王二点など柏原歴史民

俗資料館へ

○篠山小校内の家老屋敷跡から貝殻

出土 ぜいたくな食生活証明

○心豊かな兵庫づくり 山南町の

「葛を生かした町づくり」が優秀賞

8日○高校問題懇の中間答申の焦点は、

西校の位置問題

12日○帰省客に夜の滝を！ 独鈷の滝ラ

イトアップ（氷上町香良）

○二百六十年前の「柏原絵図」柏原

町見長地区の文化祭で初公開

15日○青垣町のボラ山で内陸部では珍し

い遺構「方形台状墓地」を調査

○春日町は黒井駅前整備で町道改修

22日○丹有地方の神姫バスの乗合事業の

赤字二億三千万円

26日○郡内高校に工業科を氷上郡工業

会が各町議会議長に要望書

○氷上市実現を訴える氷上青年会議

所 近く郡内各戸にPR紙

29日○丹波地区の経済力の証 納めた国

税が国からの配分額を上回る

■ 9月

2日○神池寺の二十六夜祭 三十年ぶり

に「火渡り」

○氷上、多紀郡で最高百四歳が三人

百歳以上老人は九人、八十八歳以

上は八十一人増の一、一七九人

5日○青垣町の「いきものふれあいの里」

野鳥の森や観察小屋建設整備計画

9日○五台山山頂の文珠菩薩 開眼法要

と除幕式

○江戸後期の柏原藩日記を酒屋の売

掛帳に転用したものが青垣町で見

つかる

16日○今田の「陶器まつり」全国レベル

へPR

19日○柏原町下小倉で広域斎場受け入れ

具体案は町と話し合い

○二十一世紀創る村おこし「かわし

る共和国」誕生 山南町上久下地

区が「桃源郷の希求」を宣言

23日○珍しいオヒキコウモリ 柏原高で

二度も捕獲 日本でまだ十四匹目

○台風で倒壊の蛸部神社（氷上町石

生）の大鳥居二年ぶりに復元

26日○丹波県民局管内の十町は十七年連

続で黒字決算

○前山小の昭和二十年卒者が念願の

伊勢神宮へ 四十八年ぶりの修学

旅行

30日○中国広東省から兵庫県へ視察団

青垣町のアマゴ養殖など見学

■10月

3日○柏原町多年の懸案下水道元年スタート

ト 十五年計画百二十二億円事業

○活性化は町の玄関から 山南町谷

川駅前開発へ久下ふるさと振興会  
が動く

7日○柏原高の校門前整備 落合橋架け

替えなどの完成

○水上町石生の水分け茶屋「いそべ」

手作りの味が評判

10日○米の集荷量は前年同期比六十%

不作と収穫遅れる

14日○柏原町はゴミの灰処理対応に苦慮

委託したプラントメーカーが倒産

焼却残渣施設を閉鎖

21日○柏原八幡神社の三重塔が創建当時

の色に復元 塗り替え修理始まる

○水上郡の人口動態 死因一位心疾

患動かず 出生七二九人、死亡八

五四人

○今田町の陶器まつりに十七万人

過去最高の人出に

24日○青垣町田井繩遺跡で古墳時代の集

落跡から土製の勾玉見つかる

28日○柏陵同窓会長に植田憲雄さん選出

会館建設は目標額の三分の一

○水上町清澄のコスモス祭りでツアー

阪神間からどっと

31日○柏原農林事務所は一〇〇㎡のマット

タケ山造成 五年計画で環境整備

○山南町商工会が魅力ある町づくり

へ街路灯設置

■11月

4日○青垣町もみじの里マラソン十六回

目で盛りあがる 三千百三十四人

が健脚競う

11日○山南町和田でアメリカ人学生と国

際交流 和やかに丹波の秋楽しむ

14日○柏原町の焼却灰残渣処理に目途

三重県の業者に委託

18日○ふるさとを見直そうと水上町の円

通寺でもみじ祭り

○春日町処理区特定環境保全公共下

水道工事に着手

28日○市島町のふるさと農園で師走を前

に飾り作り

■12月

2日○柏原町会議が議長不信任案を可決

したが由良議長は辞職せず

12日○来年度の高校募集定員 柏原は一

学級増 篠山鳳鳴一学級減

16日○国道四二七号青垣―加美町(多可

郡)を結ぶ播州トンネルが開通

19日○春日町の七日市遺跡で陸橋部もつ

周溝墓出土 ムラの広がりも判明

26日○市島町のゴルフ場開発工事再開

七年秋オープンへ

○市島町の梶原遺跡で奈良時代の木

棺墓出土

○丹波十町の新成人は一、八三〇人

前年比六・三%増

○柏原八幡神社三重塔威容高まる

二十七年ぶりの改修終了



■94年1月

6日○ゴルフ場開発凍結 自然破壊など

問題点多く新規受理停止

9日○山南町が国鉄用地を取得し谷川駅

前再開発

○職業系の学科増設をと春日町議会

が県教委へ要望書送る

13日○舞鶴自動車道春日インターの年末

年始の利用数六万八千五百台

昨年同期比七・六%の伸び

16日○窃盗犯が大幅に増加 死亡事故も

多発(篠山署のまとめ)

20日○昨年産米水稻前年比二、六二〇ト

ン減「不作くつきり」収量は三五

三〇〇トン(兵庫統計情報事務所

柏原出張所管内)

○北近畿自動車道水上インター 三

月メドに十一ヘクター用地買収

23日○水上町教育委員会は稲畑人形の技

術保持者赤井みさよさんを無形文

化財に認定

27日○青垣町沢野・口塩久地区に工業団

地が完成 雇用創出や若者定住ね  
らう

○青垣二〇〇一年日本画展の知名度

アップ 青垣町で三十日間次いで

東京展六日間

■2月

3日○柏原町長選あつ気なく幕 無投票

で北川氏初当選

6日○義援米三五〇キロを青森へ送る

(JA丹波ひかみ青年部)

○増加する不登校生徒 柏原中で丹

有の小中学校が研究会開く

10日○山南町村森で連房式登窯など確認

「惣太郎焼」の可能性も 江戸初

期の窯跡を調査(水上郡教委)

13日○柏原町の福祉に「マンションを換

価して活用を」と東京の故三崎千

代さんが遺言

17日○農協連丹波会館が三月末で閉鎖

統廃合で滝野町へ引越し

○「谷中分水界」をPRする看板を

設置 国内では極めて珍しいとさ

れる西紀町栗柄地区の分水界  
○丹波路を白一色に平地でも積雪二  
十五センチ 青垣町の生野峠では  
五十七センチ

20日○丹波の米穀店にも外米 カリフォ

ルニア米と混合 近くタイ米との

ブレンド米も

24日○自作のソフトで管内の小中学校結

ぶ 水上郡教育委員会がパソコン

通信を開発

○兵庫事業で柏原町に「丹波の森公

苑」今田町に「県立陶芸館」建設

■3月

3日○十年続く青垣町遠坂小の鉛筆削り

大会 手先の器用さ身につけ工作

などに好影響

○柏原町の国道一七六号鐘ヶ坂峠の

土砂崩れ復旧工事完了

6日○平成六年度予算案

市島町 生涯学習センターがメー

ンで総額八十二億四千万円

青垣町 温水プール着工、総合運

動公園などで大幅増 総額は八十二億二千万円

○氷上町の子算案総額は百三十三億

七千六百万円 中央小にランチル

ム、中小企業への融資拡大

○春日町予算案総額百十四億五千万

円 庁舎建築、総合運動公園など

13日○柏原町母坪に大型ショッピングセ

ンターの建設計画 コープこうべ

を核に地元専門店と共同型店舗

○J R柏原駅前に田捨女の幼子像

完成 俳人細身綾子さんが碑文

柏原ライオンズクラブの三十周年

記念事業

17日○柏原町の磯尾柏里さんは端午の節

句に向けて桃太郎や金太郎彫る

20日○氷上町の中央地区に欧風のモダン

な総合保育園舎が完成

○丹波の将来像考える県民フォーラ

ムを柏原で開催 二千三十年には

人口約十万人と予想(現在約十二

万人)

24日○春日町で足立さつきリサイタル

留学成果たっぶりのイタリアオペ

ラを披露

27日○丹波の高齢化さらに進み一人暮ら

しの老人増加 七町が高齢化率二

十%台

31日○氷上郡小中学校長異動

小学校Ⅱ上野敏夫崇広小校長、瀬

川泰三和田小校長、谷口康博久下

小校長、芦田康三小川小校長、勝

川浩幸北小校長、下野美彦西小校

長、荻野一雄神楽小校長、佐中幹

直芦田小校長、高見多和子鴨小校

長、和田道春吉見小校長、山本義

敬春日部小校長、足立勲進修町校長

中学校Ⅱ長沢弘山南中学校長、坂東

堯次青垣中学校長

■4月

3日○複線化の願い込め柏原駅をトップ

に標語の看板掲げる

7日○J A丹波ひかみ農協が合理化で農

協マーケット閉鎖 トップきって

市島店

○市島町の岩戸寺で三十三年ぶり本

尊開扉 本尊は「仙人一万三札」

の作・十一面千手千眼観音

○日本舞踊藤間流の勤有さんが師籍

五十年祝う

10日○氷上町南地区の公共下水道事業は

浄化センターが完成 一部地域で

供用開始

14日○学校がパンク状態 学習指導要領

の改定で県下有数のマンモス校・

柏原高校教室不足に悩む

○三百年以上続く丹州十三日講が氷

上町常楽の極楽寺(浄土真宗本願

寺派)で開かれ御消息の披露など

17日○篠山町河原町の丹波古陶館が二十

五周年二十四日から記念特別展

21日○柏原町「丹波悠々の森」二十九日

待望のオープン キャンプ場やレ

ストラなど六年かけ整備進める

○故郷の民話をテーマにした「お仙

恋唄」出来上がる 青垣の中尾巖





# 関東氷上郷友会々則

## (名称)

第1条 本会は関東氷上郷友会と称する。

## (目的)

第2条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とする。

## (事業)

第3条 本会の前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 毎年1回以上全会員の参加集会を催す。
- (2) 八十歳の会員を祝寿する。
- (3) 毎年1回機関誌『山ざる』を発行し会員に頒布する。
- (4) 会員有志によるサークル活動を奨励する。
- (5) その他本会の目的を達成するために適当と認められる事業。

## (会員)

第4条 本会は兵庫県氷上郡の出身者及び氷上郡に縁故のある者を会員とする。

## (会費)

第5条 本会は会費として会員より年額〇〇〇〇円を申し受ける。別に必要あるときは理事会の決定による額を申し受

けることができる。

## (寄付金)

第6条 寄付金は随時受納できる。

## (役員)

第7条 本会に次の役員をおく。

### 理事

若干名

### 会長

1名

### 副会長

若干名

### 常任理事

若干名

### 会計担当理事

2名

### 監事

2名

## (役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し会長事故あるときは副会長のうち1名が会長職を代行する。理事は会務を執行し、常任理事は理事会から付託された事項または緊急事項の処理に当たる。

監事は会務及び会計を監査する。

## (役員を選任)

第9条 役員は総会において選任する。

## (役員の仕事)

第10条 役員の仕事は2年とし重任を妨げない。

## (役員の仕事)

第11条 本会の役員は総て無報酬とする。

(名誉会長・顧問)

第12条 本会に名誉会長及び顧問をおくことができる。

2 名誉会長及び顧問は理事会の議を経て会長が委嘱する。

3 名誉会長及び顧問の任期は役員任期に準ずる。

(会議)

第13条 会議は総会と理事会とし、総会は通常総会と臨時総会とする。

2 通常総会は毎年11月に開き、必要に応じ臨時総会を開催することができる。

3 理事会は理事をもつて構成し必要に応じ開催する。

4 会議は会長が招集し、会議の議事は出席者の過半数により決する。

(委員会)

第14条 会長は本会の事業を分掌するため理事会の議を経て委員会を設け、委員を委嘱することができる。

(会計報告)

第15条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終わるものとし、会計報告は通常総会において行うことを原則とする。

(会則の改訂)

第16条 本会則の改正は総会の議を経て決定する。

役員氏名 (平成六年十月現在、敬称略)

会長 村上末吉

副会長 吉住重造

顧問 足立三治

佐々木盛雄

細見綾子

監事 荻野 武

常任理事 足立かをる

坂上勝朗

出町京子

理事 足立勲平

秋元多美子

大野善三

木呂子恵美子

高見嘉都司

前田和司

若林敏郎

渡邊隆男

上山 顕

谷垣正雄

田 英夫

藤田正雄

足立和巳

田中篤郎

宮野 近

足立謙雄

芦田重秋

岡 吉明

千種倫幸

村上 昇

堀井隆川

小山中博

榎村 葦井

岡田一男

波多洋三

小田富士夫

足立謙悟

常岡幹彦

鶴田ゆき子

足立誠一

小川晴通

大木正徳

木村つた江

安達陽一

村上善英

安原三智子

46  
28

平成5年11月20日

**会 計 報 告 書**

(平成4年10月1日～平成5年9月30日)

関東氷上郷友会

会計理事・足立和巳

単位 円

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	821,305	現金 54,872- 他預金 766,433-	出版費	0	「山ざる」24号 10月発行のため
年会費収入	92,000	延54名	通信・印刷費	108,776	総会・役員会の 案内他
総会費収入	399,000	7,000円×57名	総会費	491,197	総会関係の支払
役員会費収入	100,000	5,000円×20名	長寿祝費	29,581	長寿者への祝い 品
編集会費収入	0		会議費	161,919	新春役員会・編 集会議
寄付金	140,000	故小谷正雄氏他 15名	慶弔費	0	
広告料収入	125,000	延7名	支払手数料	2,088	郵便振替料・送 金料他
受取利息	2,245	郵便貯金分 2,143- 普通預金分 102-	消耗品費他	50,000	丹波新聞正月・ 暑中見舞広告
雑収入	1,000		繰越金	1,140,619	現金 112,411- 郵便貯金 189,634- 普通預金 38,574- 定額預金 800,000-
HM資金	303,630				
合計	1,984,180		合計	1,984,180	

監査の結果、上記の通り相違ありません。平成5年11月20日 藤田正雄 荻野 武

建築材料販売工事

建設大臣許可 第 1834 号

# 中央建材工業株式会社

専務取締役  
東京支店長

荻野武

(市島町出身)

**本社** 名古屋市千種区高見 1-6-1  
電話 052 (761) 6181 (代表)

**東京支店** 東京都中央区銀座 7-14-3  
電話 03 (3543) 8106 (代表)

**大阪営業所** 大阪市西区江戸堀 1-8-15  
電話 06 (443) 6665

**豊田営業所** 愛知県西加茂郡三好町大字三始西田 3-4  
電話 05613 (4) 3121

**仙台出張所** 仙台市青葉区高松 2-11-15  
電話 022 (273) 5724

**札幌出張所** 札幌市中央区南一条西 7-12  
電話 011 (271) 3961

**新潟出張所** 新潟市米山 5-1-25  
電話 0252 (45) 1705

**松本出張所** 松本市野溝木工 1-6-58  
電話 0263 (25) 0351

**広島出張所** 広島市西区中広町 1-4-16  
電話 082 (291) 3780



財団法人 東洋療法研修試験財団 理事

社団法人 日本鍼灸師会 名誉会長

鍼 專 門

杏 林 堂

院 長 小 川 晴 通

新宿杏林堂

〒163東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル5F

電話 03-3348-0721 FAX 03-3348-0722

# 二玄社の定期雑誌

本格的腕時計の専門誌

[インターナショナル・リスト・ウォッチ]

INTERNATIONAL  
WATCH

- A4判変型
- 季刊 年4回
- 定価 1300円(税込)

自動車評論のオピニオン誌

CG

- A4判
- 月刊 毎月1日発売
- 定価 1010円(税込)

ひと・くるま・社会をソフト面で考える

NAVI

- A4判
- 月刊 毎月26日発売
- 定価 680円(税込)

古今の名車を美しい写真で紹介する

SUPERCG

- A4判変型
- 隔月刊 奇数月の22日発売
- 定価 1800円(税込)

二玄社 東京都千代田区神田神保町2-2  
電話03-5210-4700/振替東京4-28782

代表取締役社長 渡邊隆男

株式会社 **三葉水道**

代表取締役 **橋爪忠**

(氷上町黒田出身)

〒276 千葉県八千代市八千代台西 7-5-29

電話 0474-84-7121番 FAX 0474-82-9626番

**門と塀と庭** ブロック 門扉 車庫  
プレハブ サンルーム ベランダ 温室

株式会社 **大樹**

代表取締役 **岡吉明**

(柏原町出身)

〒351 和光市南1-11-40 電話 (048)463-4420 (代表)

# 大菱印刷有限公司

田 中 寛 (山南町出身)

〒110 東京都台東区台東1-27-5 大塚ビル

☎03-3833-1595

同郷の著者による珠玉のエッセイ集

## 様々な出会い

上山 顕著 / 四六判 352頁 / 定価2000円

[大船調映画]の盛衰を描くドキュメント

## 撮影所のある街 大船物語

升本喜年著 / 四六判 242頁 / 定価1500円

株式会社 **ホンゴ出版**

代表取締役 池田 忍

東京都中央区明石町 2-16-501

〒104 ☎03 (3248) 6625

郵便振替 東京 3-144071

水・電気・熱などエネルギー全般の御相談に応じます

電気主任技術者第一種免状 第2-319号  
技術士(電気部門)登録証 第15810号  
エネルギー管理士(電気)免状 第2857号  
エネルギー管理士(熱)免状 第5191号

## 若森技術士事務所

所 長 若 森 敏 郎

〒302 茨城県取手市白山5-4-13  
TEL 0297(72)0907

丹波茶・宇治茶の御進物 御贈答に 明日香園の健康銘茶を!

《明日香園のオリジナルブランド》 ウーロン茶の缶ドリンクが  
ただいま大好評です。各種御注文は本社工場にて直接承ります

創業明治四年 **伝** **統** **銘** **茶**

株式会社 **明日香園**

代表取締役社長 池畑豪士郎

本社：東京都千代田区九段北2-3-2 電話(03)3265-2579

本社工場(御注文承り先) 兵庫県氷上郡柏原町南多田3146

電話(0795)72-3588 **フリーダイヤル0120-163588**

直販店：西武百貨店池袋本店B1 電話 5952-5076(直通)

調布市中央図書館  
文芸誌「たきおん」同人

木村つた江

東京都調布市東つつじヶ丘2-39-5  
電話 (03) 3300-6895

株式会社 **近藤写真製版所**

取締役社長 **近藤勇夫** (国領出身)

東京都新宿区下宮比町2番17号 電話 03-3260-6281(代表)  
FAX 03-3260-6527

PHP 文化フォーラム  
埴生の宿

代表 吉住自由造

(春日町中山出身)

事務局 〒216 川崎市宮前区宮崎5-5-35

TEL 044-866-3621

東京連絡所

TEL 03-3875-3326

オペラ界の名花

足立さつき後援会

名誉会長 吉住自由造

事務局長 市場暉子

事務局 〒121 東京都足立区竹の塚2-29-16

TEL 03-3858-1219

消費税・法人税・所得税・相続税・贈与税  
の相談・代理申告

## 船越税理士事務所

税理士 船越 祥郎

(春日町多田出身)

〒196 東京都昭島市郷地町 2-17-9 電話(0425)44-5997

(株)ミワシステムズコンサルティング

代表取締役

足立 謙悟

〒220

横浜市西区岡野一 13-13  
TEL (045) 321-5418  
FAX (045) 321-3801

足立 勲平

〒251

藤沢市鶴沼 藤ヶ谷一 7-4  
電話 0466 (27) 2646  
(22) 6461

足立 和巳

自宅

府中市柴町一 1-5-27  
電話 (0433) 641727  
FAX (0433) 3610576



足立 静雄

電話 (〇三) 三五〇八一八二三八

足立 良平

足立 誠一

〒248 鎌倉市鎌倉山四一八―二五  
電話 〇四六七―三一―三六〇〇

日本損害保険協会  
特級(一般)資格 第特一三五八六号  
飯田保険事務所

飯田 光雄

〒285 千葉県佐倉市白銀四一十四―五  
電話 〇四三(四八五)〇五〇三  
FAX 〇四三(四八五)〇二九一

株式会社ニュー東京フーズ

社長 足立 卓巳

〒284 千葉県四街道市美しが丘二丁目一九―一  
電話 (〇四三三) 三二―四八七七番

生田 清弘

〒157 東京都世田谷区成城一―七―七  
電話 (〇三) 三四一五一―一八九三

井 本 義 一

〒194 01 町田市能ヶ谷町一六二六―七

上 田 脩

〒112 東京都文京区小石川五一七―六

上 山 顯

〒106 東京都港区元麻布二ノ一一ノ三六ノ五〇三

日製産業株式会社

相談役 大 木 正 徳

大 野 善 三

自宅 〒228 相模原市相模台七―二五―八  
(〇四二七―四六―八七七九〇)

小 田 富 士 夫

前 参議院議員  
現 日本自動車ターミナル株式会社取締役社長

梶原清

〒102 東京都千代田区平川町二丁目七十九全共連ビル5F  
電話 ○三―三二―六三―六一二―一(代)  
自宅 〒152 目黒区東ヶ丘二丁目三―二八アルカサノ東ヶ丘302  
電話 ○三―三三―四一―八一―一二二―二五

粕谷進

〒276 八千代市八千代台南二丁目七―一  
電話 ○四七四―八二―〇七〇九

岸田勇

〒343 越谷市東越谷二丁目三―三三―一  
電話 ○四八九―六六―五二二六

木呂子恵美子

株式会社 茨城環境技術センター

代表取締役  
社長  
久保春雄

〒300 土浦市東崎町十三丁目二―六〇四

栗田功

社団法人 日本ロボット工業会

理事  
事務局長

小 森 康 宏

〒106 東京都港区芝公園三丁目五番八  
機械振興会館 213号  
電話 〇三(三)四三(四)二九九一 九代表

坂 上 勝 朗

静岡大学教授

坂 本 重 雄

自宅 〒422 静岡市小鹿三丁目四一五  
電話 〇五(四)二(八二)八〇五八番

佐 々 木 盛 雄

〒161 東京都新宿区中井二丁目十一番十八

笹 倉 強

〒352 新座市栄四ノ五ノ二五  
電話 〇四(八)四七(七)五六(四)〇

ディー・エス・デザインワークス

アート・ディレクター 鈴 木 大 助

〒272 市川市南行徳三丁目一七番一六―二〇六  
電話 〇四(七)三(一)九八(一)九四(四)〇

正呂地 群治

〒106 東京都港区芝大門二一六一十二  
(正呂地ビル)  
電話 (〇三) 三四三二一 二六五三

勢川 武彦

〒164 東京都中野区東中野二ノ一七〇二〇  
電話 (〇三) 三三六一 一八六七六番

高見産婦人科

医学博士 高見 嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地  
電話 (三九五六) 〇六〇〇番

田中 篤郎

谷垣 正雄

東京都杉並区高井戸西一 二四一七  
電話 (三三三二) 一〇七六番

常岡 幹彦

鶴田 宏

田 英 夫

東京都千代田区永田町二一―一―一  
参議院議員会館220号室  
電話 (三五八一)三二二一―内線五二二九

新 田 浩 迪

〒222 横浜市港北区師岡町四一八グリーンヒル大倉山C-106  
電話 ○四五―五四―一三四二九

日本舞踊  
西 崎 祥  
端 唄  
根 岸 妙

〒223 横浜市港北区大綱町五〇〇―一八  
電話 (〇四五)五九一―六六五五

野 村 豊

〒156 東京都世田谷区船橋七―四―一二  
電話 ○三一三四八二―九九三〇

波 多 洋 三

〒112 文京区春日二―一七―二  
電話 (〇三)三八二―二八六〇番

畑 義 則

伴 野 剛 敬

〒240-01 神奈川県三浦郡葉山町長柄字南郷一六四二―二五五  
電 話 ○ 四 六 八 一 七 五 一 六 七 四 五

宗教法人 青葉山 真照寺  
八王子 青葉霊苑 管理 (都営八王子霊園となり  
新規墓地分譲案内中)

住職 堀 井 隆 川  
〒193 東京都八王子市元八王子町三―二三九七  
電 話 (〇四二六) 六三一八 四〇三

瑞豊産業株式会社

代表取締役  
社長

水 船 隆 昌

〒102 東京都千代田区五番町六  
グレイス五番町ビル7F  
電話 (〇三)三三二二―七三三五

(財) 兵庫現代芸術劇場

常務理事

満 浦 謙 之

〒650 神戸市中央区下山手通四―一六一三  
TEL 〇七八(三三三)一五〇・一五一  
FAX 〇七八(三三三)一―一五二  
兵庫県民会館4階

国際行政書士協会会員  
東京都行政書士会会員  
行政書士 宮 野 近

〒192 八王子市打越町一―二一三―三  
TEL 〇四二六(三三五)四三八五

ウエディングドレス専門創作卸  
(株) シャルム商会

常務取締役  
東京店店長

村 上 昇

東京店 〒164 東京都中野区弥生三ノ五ノ三  
電話(〇三三)三三七四―〇二一五(代)  
本社 〒604 京都市中京区間之町通竹屋町上ル大津町六四五  
電話(〇七五)二二二二―〇二一五(代)

村 上 久 夫

〒168 東京都杉並区高井戸東三―四―十二  
電話(〇三三)三三三三―七一三四番

弘企商事株式会社

取締役 森 田 宏

〒106 東京都港区六本木七丁目十五―十三  
電話(〇三三)三四〇四―一一七三  
FAX(〇三三)三四〇四―一八六〇

コスモ海運株式会社

代表取締役  
専務取締役

義 積 保

〒110 東京都台東区東上野三丁目一八番七号  
(東京建物上野ビル七階)  
電話 〇三―三八三二―〇七〇一  
FAX 〇三―三八三二―一五二〇五

渡 邊 圭 造

渡 邊 隆 男



集	編
記	後

☆来年は水上郷友会の百周年という。明治二十八年の発足、日露戦役や第二次世界大戦中の空白期があった

にせよ、星霜百年よくも続いたものだ。何はともあれ、関東在住の郷友ことごとく相会して、祝杯を高らかに上げよう。

この百年、日本の各界に綺羅星のごとく輩出した郷土の諸先輩を崇めるだけでなく、青雲の志なれば異郷に埋もれた数千の郷友をこそ称えたい。一分間の黙祷でいい、それは我が志の証しともなろう。

☆おかあちゃん、おとうさん、健在ならば今のうちに何度でもそう呼んでおきたい。親あつてのふるさとだ。忙しいなどといっていいないで、足まめに帰ろう。もはや亡き父母ならば、せめて年に一度の墓参は欠かすまい。親の眠るふるさととは、切っても切れない血脈の強い絆だ。ふれ合うことが何にもまさる孝というもの。

★日本の四季は世界一、丹波の山河は日本一、川面に立つは真綿か霨か。山巖棚

引く春霞。梅雨の糠雨しつぱり濡れる。雷鳴夕立ち茶話つどい。満天星屑、白金

月夜。朝霧墨絵の影ほかし。枯野に昇るはくすべの煙。丹波の大地は湧き清水。

スマレ、タンポポ、蓮華草、アザミ、夕顔、曼珠沙華。丹波の土手は花色木綿。

目醒めうぐいす雀で仕事、蛙の合唱で日が暮れる。燕空切りや田植唄。蝉しぐれ雲雀のさえずり精魂込めて、稲刈り急げ

とせきたてる。カナカナ蝉のかなしみ受けて、しじまのふくろう輪廻をきざむ。霜枯れて田圃の窪みは薄氷、パリパリカ

シヤカシヤ懐手、あかぎれ北風白吐息、山の頂き雪化粧、炬燵いとしや母恋し。

☆年経れば、何もかもが美化される。貧しかった、辛かった、せつなくやるせない日々だったのに。そんなふるさとを、

ほんとうは、逃げ出したのではなかったか。父母の温もり、育くまれた山河の後にしたのは、果して青雲の志だったか。

★巢をけて飛び立つ鳥は性ならば、いささか悔いることもなく、高く遠くに渡

るべし。生涯わずか百年の夢ぞ幻失せるまで。住みなれた喧噪の街東京の娑婆の波間にもまれても、我は山の子、丹波の子。我に託した父母の夢、たんと叶えてみせませう。山の彼方になお遠く、幸住むを訪ねよと、いつか孫子に伝えかし。☆ほんまに暑い夏やったね。子供の頃の丹波を思い出しましたわ、あれがほんまの夏ちゅうもんでんな。お元気で。(女)

## 山ぐる 第25号

平成六年十一月一日発行

### 〈編集委員〉

足立静雄 池田 忍 木呂子恵美子  
足立和巳 大野善三 小田富士夫  
坂上勝朗 田中篤郎 常岡幹彦  
鶴田ゆき子 宮野 近 渡邊隆男

発行者 関東水上郷友会会長・村上末吉

〒102 東京都千代田区神田小川町一ノ二

DMビル内・関東水上郷友会・事務局

☎03(3119)0707

振替0011013113130

製 株式会社二玄社

編集協力 株式会社ホンゴ出版

# くつろぎ多彩、いま1枚のカードから...



フラスキーヤ / 三浦雄一郎



30年の歴史と80,000名のエグゼクティブ達。  
1枚のカードで全国200店をご利用いただける。  
比類なきスケールの会員性クラブとして、  
おおらかなクラブライフをおとどけています。



● 当クラブでは、品位と風格を守るため、取次ご入会資格を30歳以上の  
自営または管理監督職以上の方とさせていただきます。

お問い合わせ・資料請求は

エスカイヤクラブ本部事務局/〒530 大阪市北区、芝田2-1-18西阪急ビル10F TEL.06-372-8571

フリーダイヤル 0120-10355

エスカイヤクラブ東京事務局/〒104 東京都中央区銀座7-2-22同和ビル9F TEL.03-3574-7340

## 嗚呼青春讃歌。

ロマンあふるる恋歌、胸躍る軍歌、情感こもる唱歌、  
ヒット歌謡まで、魂を揺さぶり、心の琴線に触れる数々の  
歌唄・詩……。専属のコーラスガールと  
一緒に心ゆくまでお楽しみください。



すすきのビル店 札幌市中央区南四条西3-3 すすきのビル6F 011-512-5191  
銀座店 東京都中央区銀座6-5-16 銀座みゆき館4F 03-3573-5885  
名古屋店 名古屋市中区錦3-19-6 ワンダフルプラザビル4F 052-951-5122  
北新地店 大阪市北区曾根崎新地1-2-28 古沢ビル4F 06-344-6316



## 浮世を彩る舞い扇。

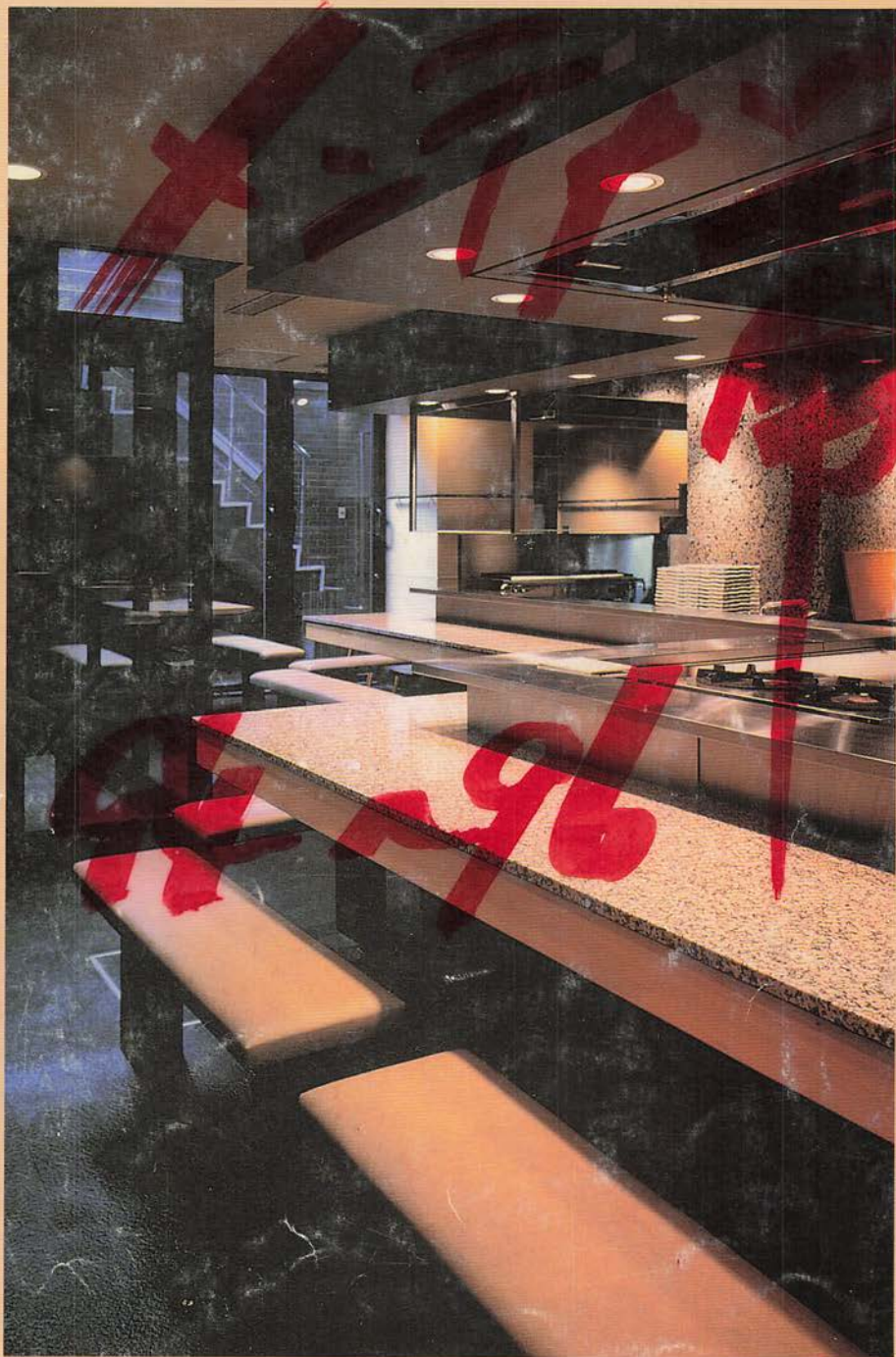
旬の味を盛り込んだ日本料理の数々、宴をいどる美酒。  
そして、舞妓・芸妓の艶舞のおもてなし。  
都心の夜を華麗に演出するお座敷情緒——。  
心ゆくまで演舞を楽しめるクラブです。



銀座店 東京都中央区銀座7-7-6 アスタープラザ4F 03-3574-7745  
北新地店 大阪市北区曾根崎新地1-5-18笠井ビルB2 06-344-2913  
南町 大阪市中央区東心斎橋1-6-5 南・VOビル2F 06-253-0581

大和実業株式会社 代表取締役社長 岡田一男

本社：大阪市北区芝田町2丁目1-18西阪急ビル10F TEL.06(372)8571



設計・施工 桂建築計画工房